

# ファースト・コンタクト1

## スターピープルと創造主の子供



### スターピープル達の来訪 目次

- 第1章 スターピープル達の来訪
- 第2章 創造主の子供と未来の地球
- 第3章 核の汚染から星々を守るスターピープル
- 第4章 創造主の子供が誘拐される
- 第5章 グレシャド星人との地球をかけたの戦い
- 第6章 地球人の感情を操る最強の創造主
- 第7章 地球と宇宙の大掃除

作者 瀬戸武志&宇宙の光

宇宙の光公式 HP <http://hikari1.com/>

アセンション評議会 HP <http://s-sun1.com>

アメブロ 光の世界へ

<http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI [hikari@k-suai.com](mailto:hikari@k-suai.com)

イラスト

えんじえる (佐藤弘之)

アメブロ <http://ameblo.jp/angel-art2010/>

# 第1章 スターピープル達の来訪

## PART1 新たに来訪するスターピープル達

2016年の6月になって、地球の未来から来たプレデター型生命達や地球人を支配しようとする地球外生命達の処理が進むと、地球のエネルギーもどんどん良くなり、地球の物理世界の分離も速やかに行われていきました。

地球のアセンションとは、闇の多い地球から、光の世界を切り離していくことですが、光の世界を分離させたくないと考えている創造主や地球外生命体によって、何度も何度もアセンションの作業を中断させられています。

しかし、この闇が多い地球から光の地球や光を持っている人々、光の世界に帰らなければならないスターシードや人間とひとつになっているスターピープル達を救い出すことがアセンションの目的でもあるのです。このアセンションを成功させるために、多くのスターピープル達が地球に来て活動しています。中心となって活動しているのは、アンドロメダ人、シリウス人、プレアディス人、アルクツールズ人達ですが、彼等をサポートするようにアシュタール連合や光のナソール達も共に働いています。

これらのスターピープル達は、古くから地球と深い関わりを持っていました。

地球の人類は、私達人類の先輩ともいえる彼らの遺伝子から生み出されていったのです。

地球は特別な星ですから、他の星では体験できないような経験を得て、精神的に大きな成長を行う事が出来ます。

アセンションの初期の時代から関わってきたスターピープル達は、私達のアセンションが成功したなら、人類をスターピープルの仲間として迎え入れ、他の星々の人々とも交流を持たせて精神的、科学的に大きな進化をさせようと思っているのです。

地球人は、今はまだ、他の星の人々と交流できませんから、この宇宙の中では孤独な種族です。

他の宇宙人の人々を公式に受け入れていませんし、他の星々に行けるような科学技術も持ちません。

地球は、まるで江戸時代の日本のように、鎖国を行う事で、他の星々との交流を立っていたのです。

しかし、アセンションを迎えることで、光の地球は、自らの門戸を開き、他の星々との交流を行う事になります。

彼等と交流することによって、地球人の考え方や技術力は大きく進歩します。

そして、アメリカ映画「スタートレック」で描かれているように、他の星の種族と協力し合って宇宙の平和のために活躍する時がやってくることでしょう。

それは、光の地球の種別にもよりますが、ここ数10年から数100年の間に実現することでしょう。

これから、スターピープルと交流する地球は、私達の思考や科学技術が飛躍的に発展します。

地球の物理的な制限を超えて、さらに自由なスピリチュアル体で活躍する地球人も現れてくることでしょう。そうすると、さらに地球人の進化は早まり、活躍できる場所も広がってきます。

2016年の7月に入った現在、地球のアセンションは大きな進歩を迎えました。  
アセンションの基礎が出来上がり、アセンションの影響が物理世界に出始めてきました。  
ここから地球の物理世界の分離作業もさらに本格化してくると思います。  
この段階になると、今迄のアセンションを支えてきた基本のスターピープル達に加えて、新たなスターピープル達が、私達のもとに降り立ってきました。

彼等は、今迄地球のアセンションを見守っていただきました。  
そして、アセンションが進み、自分達が必要とされる時期になったので地球に入ってきたのです。  
彼等は、様々な目的をもってこの地球に降り立ち、光の世界に行く人々を導いたり、精神的・肉体的な成長のために、サポートを行っていきます。

新しく地球に入ってくるスターピープル達は、まず地球の窓口として私達の元を訪れます。  
そして自己紹介をしたり、私達に大切なメッセージを与えてくれます。  
私たちは、そのことを皆さんにご紹介する立場の人間でもあるのです。

新たなスターピープルはその種族の特徴や目的に合わせていくつかのグループに分かれます。  
また、彼等が来た星系によってもいくつかのグループを作っていますので、今回は大まかな所をご紹介します  
と思います

## PART2 アセンションを支えるスターピープル

最初に私達と共に、初期のころからアセンションに取り組んできたスターピープル達を、まずご紹介しましょう。

彼等は、実は地球の古代文明の時から地球人を生みだし精神的な進化を手伝ってきた存在です。  
新しく来訪するスターピープル達の多くは、彼らの仲間たちでもありますので、まず中心となる星の人々の役割を知ることが大切です。

### ★アンドロメダ星人

アンドロメダ座の星から来た人達です。  
彼等は、アンドロメダ銀河の人々とも深く関わり、共に私達を指導しています。  
彼等は、地球人に「愛」について多くの教えを行いました。  
イエスキリストや聖母マリアもこの星の人達です。  
現在の地球の人類の基盤を作った人達でもあり、今回のアセンションにも、最初から深く関わっています。  
彼等の容姿は、髪が長く、イエスキリストのように強い光をまとっています。  
面倒見がよく、私達にとって頼もしいお兄さん、お姉さんのような親しみやすい人々です。  
彼等は、アセンションの具体的な作業に深く関わっています。  
地球のエネルギーを高めたり様々な世界を分離したり、あるいは問題のある地球外生命体から地球人を守るもの彼等の役目です。

また地球そのものを防御するための守護的な活動も行なっています。

### ★プレアディス星人

プレアディスも地球人に愛を教えるためにやってきていますが、プレアディスが教える愛は、自分のパートナーを深く愛することです。

アンドロメダ人が教える「無償の愛、人類愛」に対して、家族や子供に対する「家族愛」のようなもっと身近な愛を教えます。

またパートナーシップの愛に対しても、自分自身とパートナーの自由と自立を尊重しますので、地球人のようなねたみや独占欲はありません。

プレアディスの世界は、地球によく似ているところもありますが、地球よりもさらに意識が高く、技術やシステムに関してさらに進んでいます。

良くピタッとしたボディースーツを着て出てくることがあります。

見た目は、プレアディスの星によって異なりますが、地球と同じように、白人や黒人、そしてアジア人のように見える時もあります。

プレアディス人は、冷静で癒しのエネルギーが強い青い光をまとって現れてくることもあり、海の安らいだエネルギーを思わせます。

プレアディス人が地球に関わる目的は、地球人が持つ制限を取り除きアセンションをサポートすることです。また反面、人々が感情的になって自分を見失ったり自己中心的にならないように導いています。

### ★シリウス星人

シリウス人はとても冷静で、高い科学力を持っている知的な星人です。

彼等は、昔、自分達の星を失った時に、そこに住んでいた人々のスピリットの多くが地球にやってきた過去を持っています。

シリウス人は、彼らの科学的な過ちから、星同士の戦争が引き起こされ、自分達が住む星を失ってしまいました。

彼等はその時、科学技術の発展を追い求めたばかりに、人を愛するという気持ちを失っていたことに気づきました。

彼等はその経験から、地球に下った時には、同じ過ちを繰り返さないように願って人間として生きています。彼等は地球でも、他者を愛する気持ちを大切にすることで、地球の破滅をすくことが出来ると願っているのです。

今回の地球のアセンションは、彼らにとっても、自分達の過ちを正し、自分達の意識を高める絶好のチャンスとなっています。

シリウス人はどんな時でも冷静で、客観的な立場から物を見ますので、地球のバランスを保ち、人々が中立的な立場で生きることをサポートします。

彼等は、近未来の宇宙船のクルーのような硬い感じの宇宙服を着ているようです。

シリウス人は、とても冷静なので、冷たいようにみられるときもありますが、彼らの本質は中立的なエネルギーを持っていますので、安心感を得られます。

## ★アルクツールズ星人

アルクツールズ人は、地球人にとってはユニークな存在と言えるでしょう。あまり地球の言葉で言い表せないのですが、まるでギリシア神話の神々のような姿に見えるでしょう。魔法や錬金術をはじめ、高い科学技術力を持っていますが、反面とても寛大な心を持っています。そして、その星の文明に深く影響を与えない程度に、アルクツールズの星の技術や考え方を教えてくれます。昔の魔法使い、神話の存在達は、ここから来ている場合もあるといえます。彼等は、様々な時代に、その時代に合った形でサポートを行い、地球の進化に大きく寄与してきました。現在、地球にある善良な魔法の発祥は、この星であるといえるでしょう。彼等は、この地球に対して、スピリチュアルな部分での進化を促進するサポートをしています。

## ★光のナソール人

ナソール人は、創造主が宇宙に生きる人々を進化させるために作った種族です。彼等は多くの星の人々を導き、叡智ある存在に進化させていきました。彼等は、科学技術、宇宙工学、遺伝子工学、医療等様々な技術に対する高い知識と技術を持っています。また、彼等は地球人の始祖として、私達を生みだし進化させてきました。彼等は、人類に対する深い洞察力と愛を持っている存在であり、我々人類の教師でもあります。彼等は、どのような存在にも姿を変えることが出来るので、地球に生きる人々にとっては、神の様な役目を果たしてきました。残念ながら、彼らは「光のナソール」と「闇のナソール」に分かれてしまいましたが、「光のナソール」は、今でも、私達を力強く導き続けています。

## ★アシュタール連合

アシュタールは、宇宙の進化と平和のために、多くのスターピープル達が参加して作られているグループです。中心は、アシュタール星に住むアシュタール種族です。かれらはおよそ 1000 年ほど生きることが出来ます。また姿も自分の好みに合わせて自由に変えることが出来ます。とても高い叡智と平和を愛する心を持って、種族の自立性を尊重しながら進化のためのサポートを行っています。彼等は飛びぬけた科学力と情報量をもって、常に私達と共に行動しています。

## PART3 新たに来訪したスターピープル達の役目

この章では、前述した以外のスターピープル達が、どのような目的で来ているのか、お知らせしましょう。詳しくは、後日発表される「スターピープル・ライブラリー」をお読みください。



現在、アセンションを行っている地球にスターピープル達が来る目的はいくつかあります。  
多くのスターピープルが、アセンションを行う光の地球に入ってきます。  
そして、アセンションを予定している人々の意識進化を手伝ったり、肉体やスピリチュアル・レベルの体の進化を行う手助けを行います。  
彼等が主に行う事は下記の事のようにです。

### 1、地球人の遺伝子などに働きかけ地球人を進化させる。

私達の遺伝子は、肉体を維持するための遺伝子とスピリチュアルなレベルに関与する遺伝子に分かれているようです。

地球人は、本来、他のスターピープル達の優秀な遺伝子を初めから組み込まれており、時が来るとその遺伝子が目覚め、他のスターピープルと共に活躍できるように仕組まれています。

しかし、地球の中で起こった戦争や抑圧などにより、遺伝子は傷つき、その本来の目的を果たすことが出来なくなってしまいました。

そこで、スターピープル達は、人間の物理的な肉体に近い場所で、傷ついた遺伝子の修復を行い、人間が本来の状態に戻れるように調整を行っています。

主に関わっているのは、下記のスターピープル達です。

シャプラン星人、クワトロ星人、ジャスティス星人、ジャラッド星人

### 2、地球人の意識を高め他の地球外生命体と交流できるようにする

地球人は、本来優秀なスターピープル達の遺伝子と共に、素晴らしい能力や叡智も受け継いでいるのですが、地球人が物理世界で暮らすうちに、自分達が持っている能力や叡智も忘れ去り、ただ物理的な肉体を維持することに、意識を集中し始めました。

人間は、他の地球外生命体と共に、大きな宇宙へと出ていかなければなりません。

その為に、地球の物理的な制限を取り除き、自由に喜びあふれる意識へと人々を導いていく必要があるのです。

科学技術やお金・物に執着するのではなくもっと精神的に豊かな世界を作り出すことを彼等はおしえてくれます。

アスメリア星人、ポラリス星人、シュトレイア星人、シャイニー星人、クオリタス星人

### 3、地球人を癒す・地球の環境を守る

アセンションに伴って私達人類は、大きな意識と感情の変化を経験します。

それは今まで、私達一人一人の心の中に蓄積された怒りや憎しみ、悲しみ、寂しさなどの感情が私達の意識に大きな影響を与え、私達の人生を作り出しているという事を知るときなのです。

そして、私達の心の中にたまった感情が解放されるに伴って、その感情が増幅されたり、再び辛い思い出として甦ってきたりすることがあります。

あるいは、光の世界に行くべき人達が、その様な感情によって道を見失ってしまう事もあります。

スターピープル達は、人間のそのような特性を良く理解しており、人間の心を癒して感情の虜にならないように導いてくれます。

また人々が忘れかけた夢や希望を思い出させてくれたり、地球の環境を整える働きもしてくれます。

主に以下のスターピープル達が、この仕事を行います。

エルフのスターピープル　ラスアルハゲ星人、マイアー星人　シャルロット星人　ベガの森の一族  
輝夜族

#### 4、地球外生命体から地球を守りアセンションを成功させる

私達は、地球のアセンションを推し進めるに当たり、アセンションを妨害する地球外生命体や闇の創造主と激しい戦いを繰り広げてきました。

地球外生命体は、地球人よりもはるかに高い能力と科学技術、そして人の意識や感情を操作する技術を持っていますので、地球人は簡単に精神的な支配を受けてしまい、彼らの思惑通りに動くようになってしまいます。

彼等からの精神的支配を受けた人々は、特殊な能力や力を身につけますので、政治・経済界においても指導的な立場となり、人々に物理的な豊かさを与える代わりに、その人達を支配していきます。

地球はこれから、今迄の争いや支配が残る学びの世界と平和に満ちた光の世界に分かれていきます。

彼等は本来ディセンションした学びの世界の住人なのですが、学びの世界と光りの世界の両方を自分達で支配したいと思い、アセンションを邪魔してきます。

私達は、そのような存在からアセンションしていく世界と人々を守らなければならないのですが、とても高い能力を持っているために、私達だけでは太刀打ちできません。

そこで、この宇宙の中でも最高の叡智を持つスターピープル達が、私達を手助けする為にやってきてくれました。

私達は、彼らの手助けをもらいながら、地球のアセンションを進めていくこととなります。

主に以下のスターピープル達です。

エリシタール星人、ロッド星人、デセピア星人

スターピープルに関する詳細は、別のレポートでまとめてご紹介する予定です。

## 第2章 創造主の子供と未来の地球

### PART1 宇宙時代を生きる地球人

私達は、アセンションを進める中で、とても大きな任務を授かりました。

それは、新たに生まれる光の地球に創造主のエネルギーを持った子供を降ろしていくことです。

新しい世界には、その世界を支えるための光の存在が必ず必要です。

特に、今回のアセンションでは、闇が多い地球から、新しい光の世界を分離して生みだしていかなければなりません。

その為に、光の世界を支えるための人間が、物理的な体を持ってこの地球に降りていくことが大切です。

そして、光の世界を生み出す創造主のエネルギーを受け止め、物理世界につなげていかなければなりません。

光の世界でも、物理的な要素が多い地球では、その世界を支える者は、物理世界に生きる事になります。

光がさらに多い半物理的な地球やスピリチュアルな存在が活躍する地球では、その世界を支えるのは、スピリチュアルな存在となりますので、あえて物理世界にその世界を支える者が降りる必要はありません。

しかし、私達がこれから進む世界は、物理的な光の地球が、宇宙に貢献する為に成長していく世界です。

私達は、そのような世界を物理次元で支えるための子供を持つ事になりました。

これからの光の地球では、地球人と宇宙から来たスターピープル達が対等な立場で協力し合って活動する事になります。

現在、スターピープル達は、物理世界ではない場所から、私達をサポートしていますが、ファースト・コンタクトの後は、地球の物理次元でも共に活動するようになります。

また、スターピープルとしてのスピリットを持つ魂が、地球人として生まれてきて活躍する場合があります。

どちらにしても、私達はアセンションした世界では、スターピープルと物理世界で共に活動することが増えてきますので、私達は自らの意識と能力を、さらに進化させていかなければなりません。

コミュニケーションひとつをとっても、彼等はテレパシーで会話しますので、私達もテレパシーが使えるようにならなくてははいけません。

また彼等は、半物理的な存在ですので、彼らの姿を見る為には半物理的な存在に対する理解と特殊な知覚力も必要とされます。

そして最も大切なことは、私達の意識を制限の多い物理世界に留めるのではなく、もっと大きな宇宙の視野で物事を見るようにすることです。

些細な事ですが、私は、ファースト・コンタクトを前に、動物のお肉が突然食べられなくなりました。

其れは、スターピープルの中には、牛のような種族から進化した者達も存在するので、哺乳類を食することは、彼等に対して失礼であるという意味で肉食が出来なくなったようです。

最近はそのような種族とも仲良く活動できるように、穀物と野菜、お魚だけを食べています。

また地球の科学技術もこれから目覚ましく発展していきます。

私はよく、宇宙工学の専門のスターピープルと話をしますが、近いうちに「スタートレック」のように、銀



河を高速で飛んだり宇宙空間をワープするような技術が発明されるでしょう。

その様な技術もスターピープルから与えられますが、与える方法としては、技術者の頭の中に、「アイデアが勝手にひらめく」という方法で行われるそうです。

しかし、そのアイデアを受け止めるには、柔軟な思考力や直観力が必要です。

このような能力もこれから地球人は身につけていかなければなりません。

私達は、これから「宇宙時代を生きる地球人」として生きていかなければならないのです。

これから光の地球に生れてくる子供は、今迄の子供とは異なる感覚や能力を身につけていくことになるでしょう。

そのためには、その親となるまだ若い人間達が、自分の中に眠っている遺伝子を活性化させ、今迄の地球人にはない能力を進化させていくことが必要です。

地球人の意識は、飛躍的に成長しますが、肉体もそれに伴って進化させなければなりません。

私と美樹さんは、地球に降り立った時から特別な遺伝子を持って生きています。

物質世界とは異なる世界が見えたり、創造主やスターピープル達の声が聞こえたりする能力もそのひとつです。

自分のスピリットを使って時間や空間を超えることや、物理世界やスピリチュアルな世界を自由に探査できる能力もそうです。

そして「宇宙の光」などでスピリチュアルな活動を行う事で、今までの地球人にはない能力や資質も目覚めさせてきました。

其れは、私達が高次元の創造主や遥か昔からこの宇宙を支えてきたスターピープル達と共に、宇宙のために活動する為に必要な能力だったのです。

私達の存在と能力は、地球がアセンションを行い、新たな地球の未来を開くために必要なものだったのです。

しかしアセンションが終了し、地球の波動が高まると、光の世界に生きる人の多くが、スターピープル達と活動するようになりますので、私たちと同じ能力が目覚めてきます。

私たちは、皆さんに先駆けて、これらの能力を目覚めさせましたが、それは、私達が地球のアセンションのために奉仕する為にこの能力を使い、自分の私利私欲のためには、使わないという決意があったからです。

皆さんの中にも、スピリチュアルな世界が見えたり、創造主や天使の声が聞こえたりすることを願っている人がたくさんいることも知っていますが、自分が有名になりたい、ヒーラーとして成功したい、お金をたくさん得たいという気持ちがあれば、このような能力が目覚めると、すぐに狡猾な地球外生命体の虜になってしまいます。

アセンションが行われると、その様な欲望がそぎ落とされていきますので、皆さんにも、スピリチュアルな世界が見えたり、スターピープルや天使達とも自由に話が出来ようになるでしょう。

そして、皆さんのスピリットの中に眠っている様々な能力もこれから目覚めてきます。

私達が今持っている能力は、これから生まれてくる子供たちにも引き継がれるでしょう。

いえ、もうすでに、私達とお腹の子供は自由にテレパシーで会話をしています。

すると、この子供がとても大切なスピリットを持って生まれてくる事やもうすでに私達の能力をはるかに超

えた能力を持っていることが分かります。

これからの地球は、この子供達によってあらたな宇宙時代の種族を生み出すことになるようです。

それは、私達が「ライトコード」と呼ばれる星のツアーで、1万年後の未来のマスターや4万年後の未来のマスターと出会い、宇宙の未来のために、地球人のスピリチュアルな遺伝子を進化させ、宇宙のマスターとなる太陽種族を生みだしてほしい、とお願いされた事から始まったようにも思えます  
それは2014年の12月から翌年にかけて行った活動でした。

## PART2 1万年後の未来の地球

私は、久しぶりに1万年後の地球がどのようになっているか見に行くことにしました。  
以前、1万年後の地球に行ったのは、2014年の12月の事ですから、1年半前の事です。

私達は、その当時行っていたアチューメントと呼ばれる遠隔ヒーリングのさなか、地球人の遺伝子に大変な問題が起きているから、1万年後の未来の地球に行って、その解決法を教えてもらってきてくださいと聖母マリアから頼まれました。

そして1万年後の未来でアーサーと呼ばれるマスターに出会ったのです。

この時、私達が訪れた1万年後の地球は、自然が荒廃し地表には人間はおろか植物や動物も生きていません。  
度重なる核戦争で地上は放射能にまみれ、誰も住むことが出来なくなったのです。  
核戦争を生き残った人々は、スターピープル達に救出されて、しばらくの間安全な場所でトレーニングを受けていました。  
そして、地球の放射能が或る程度除去された後、地球の地下に作られた地下都市に戻され、そこで生活するようになりました。

もちろん放射能が除去されたとはいえ、まだ地球には、多くの放射能汚染が残り、大気も十分にありませんから地表に住むことはできません。

その為に、スターピープル達の叡智と科学技術力によって、地球の地下に人工都市がつくられたのです。  
もちろん、その地下都市は、その当時の地球のレベルをはるかに超えた素晴らしい都市でした。

しかし、人口太陽に照らされた地下都市は、近代的ではありますが、人々に生気がなく、完全に管理された無菌室の様な雰囲気の世界です。

この時の人間は、放射能や有害な物質から自分達の体を守るために特別な防御服を身に着けています。  
そしてこの地下都市を研究し、新たな場所に広げて、自分達の子孫を繁栄させていったようです。  
しかし、地球の表面には大気層はもうなく有害な放射線と隕石が落ちてくる危険な場所でしたので、彼らは地下都市から出ることなく暮らしていました。

私達は、この時に、これから起きる核戦争や原発の事故による放射能汚染などから自分の体を守るために自然治癒力を高める為のライトコード（スピリチュアル遺伝子）と戦争や支配をなくすために人々の意識に愛をもたらすライトコード（スピリチュアル遺伝子）をもらって21世紀の地球に帰ったのです。

この2つのライトコードを使う事で、今見てきた未来都市を持つ地球が生まれ出されるようです。

私は1年半前に行った地球を思い出していました。

今の地球の延長線上にある世界ですからアセンションした世界というよりは、なかばディセンションした世界のようにですが、この世界がどのようになっているか見に行きたいと思ったのです。

私達はフェニックス号に乗って時間を超えていきます。

1万年後の地球についてようです。

すると驚いたことに、地球は美しい自然のままです。

いえ、21世紀の地球よりもさらに美しく自然が豊かです。

排気ガスを出す工場も車もなく、海も大地は、全く汚されていません。

大地には美しい植物が生い茂り、人々はくつろいだ服をきて安らんでいます。

私達が、前回見たような放射能で汚染された地球はどこにもありません。

驚いている私達の前にあの時のマスターであるアーサーが現れました。

前回あった時はとても暗く真剣な表情をしているのですが、今はとても明るく、まるでハワイのサーファーの様な軽々しい感じです。

「TAKESHIさん、そろそろおいでになる頃だと思いました。

この世界を見て驚かれたでしょうね。

前回来られた時とは、まるで天国と地獄のような差ですね。」

わたしはアーサーの変わりようにも驚いて尋ねました。

「この地球では何が起きたのですか。」

アーサーはともうれしそうに答えます。

「この地球では、21世紀に地球のアセンションが成功したのですよ。

地球は、闇の地球から脱皮して素晴らしい光の地球を生まだしました。

そして新しい種族達が生まれ、地球人は新たな成長段階に入りました。

もちろん、地球では核戦争もなくなり、地球人はスターピープル達と協力して理想的な地球を作りあげたのです。

あのころは、まだあなたは美樹さんと出会っておらず、2人が協力して地球のアセンションを成功させることは予想できませんでした。

そして未来の種族となる最初のお子さんも生まれる事はありませんでしたので、地球は地球外生命体の介入によって、核戦争を引き起こし荒廃してしまったのです。

地球人の一部でも助け出したいと願っていたスターピープル達によって、一部の人間だけが助け出され、地球人としての種族を絶滅させないように、地下都市で生きるしかなかったのです。」

「という事は、私達が今アシュタールや多くのスターピープル達と共にいるアセンションは無事に成功したのですね。」

アーサーは私の肩をたたきながら、山の向こうを指さします。

そこには、この地球に飛来してくる様々な星の宇宙船や空に浮かぶ巨大な宇宙船発着場が見えます。

「地球はスターピープルと共に、大きく成長しました。

今では、宇宙の中でも中心的な星として、多くの星々からたくさんの人々がやってきます。そして、この地球で多くの事を学んだり、宇宙の平和のための教育を受けて帰るのです。これも、すべてあなたのアイデアから生まれたのですよ。」

「それでは、地球人はスターピープル達が目指していたように宇宙に貢献できる種族になったのですね。私達が作ったユニバーサルパレスはどうなりましたか。」

「ユニバーサルパレスは、あの時から常に宇宙の中心となって活動していますよ。あなたの子供達や子孫によってその思想は引き継がれ、今は素晴らしい宇宙連合になっています。」

私は、私達の最初の子供は、様々な星と地球のかけ橋となる「地球大使」の役を担う事が分かっていたので、きっと彼女がうまくやってくれたのだと思いました。一緒にフェニックス号に乗ってやってきたスターピープルや天の川銀河の騎士団たちもうれしそうに周りを見て楽しんでいます。中には、宇宙船発着場に行ってこの当時の宇宙船の技術やシステムを調べている者もいます。一緒に来た誰もが、地球のアセンションの成功を確認し喜びに満ちています。

あの地下都市で暮らす地球人達は決して幸福そうではありませんでした。きっと、核兵器や放射能汚染によって自分の大切な人達をたくさんなくしてしまったのかもしれませんが。あるいは、地球の自然の破壊と共に、自分達の心の拠り所を失ってしまったのかもしれませんが。

しかし、今私達の目の前に広がっている地球では、人々が心の底から喜びに満ち溢れ幸福そうです。これから先、どのような素晴らしい世界が来るのか、希望に満ちています。

### PART3 4万年後の未来と宇宙評議会

私達は、さらにフェニックス号に乗って4万年後の未来に行くことにしました。2014年の12月に来たときは、重苦しい雰囲気につつまれた地球でした。この時は4万年後の宇宙評議会によって私達は呼ばれ、アーサーから受け取った遺伝子によって、これからの地球が大きく変わる事を予言されました。

その時の評議会は、大きな宇宙基地の中にあり、とても機械的な感じがする場所でした。前回言った4万年後の地球は、放射能汚染によって自然が荒廃した1万年後の地球の未来ですから、まだ地球そのものには、人々が住めないのかもしれませんが。評議会のマスター達は、私達が21世紀の地球で新たな遺伝子や遺伝子構造を身に着けることで、4万年後の未来に、宇宙全体を救済することが出来る太陽種族が生まれることを願っていました。そうしなければ、この宇宙には大きな危機が起こり、その危機を乗り越えることが出来ず、多くの星々の人が傷つくことが宿命づけられているという事でした。

私は4万年後の地球にたどり着きました。おそらく1万年後の地球も、アセンションが成功して大きく変わっていたので、この世界も変わっているこ

とを期待しながらフェニックス号を降り立ちました。

やはり、私達が予想していたように、4万年後の地球も美しいままです。

地球は自然を汚さないように、建物や人々の生活が規制されているようです。

4万年後の地球は1万年後の地球よりもさらに美しく素晴らしいエネルギーが満ち溢れているように思えます。

人類の数もさほど多くない所を見ると、他の星へ移住している人達もいるかもしれません。

私達が、この世界の様子を見てみると、以前お会いした宇宙評議会のリーダーが私達を迎えに来てくれました。

そしてビジター用の素晴らしい部屋へ案内されました。

まるで今の時代で言えば高級ホテルのサロンのようです。

私は、宇宙評議会のリーダーに、この世界がとても美しくなりましたねと言いました。

リーダーは、私達に向かって丁寧にお辞儀をしながら答えます。

「皆さんが、21世紀の地球でアセンションを成功させることにより、それ以降の地球は劇的に変わりました。

まず、アセンションした地球では核兵器や原子力発電はなくなりましたので、地球が放射能汚染にさらされることはなくなりました

そして、悪意のある地球外生命体が処理され、多くのスターピープルが救われましたので、地球だけでなく宇宙全体が素晴らしい平和と調和の世界をすぐに迎えることが出来たのです。

そして皆さんによって、支配欲が強い創造主や狂気に満ちた創造主、闇の世界の創造主が見事なまでに処理されましたので、私達だけでなく多くの宇宙の人々が安らぎと喜びに満たされているのです。

もちろん、皆さんから生まれた種族は、この宇宙の平和と統合のために、素晴らしい活躍を行っていただきました。

そして、スターピープル達の統合と発展のために、いつの時代にも力を尽くしてくれたのです。」

私は、2014年の当時の星のツアーで、未来の地球に襲ってきた様々なトラブルを仲間と共に解決したことを思い出しました。

「私達は、3万年後の未来やいくつもの時代に大きなトラブルに襲われ、天の川銀河が壊滅するような危機に落ちいったことを覚えています、それはどうなりましたか。」

リーダーは、何もなかったような顔をして答えます。

「TAKESHIさん達が、あの時代に危険な地球外生命体や問題となる創造主を大方かたづけてくださいましたので、その後問題が起きることは、ほとんどなくなりましたよ。」

私は、リーダーの言葉に安心するとともに、この時代にも私達の子孫がいるのか気になりました。

評議会のリーダーが、近くにいた仲間に一言告げると、彼はすぐに部屋を出ていきました。

「TAKESHIさん、もちろんです。

あなたの子孫は、今でも大活躍されていますよ。」

すると私達の部屋のドアが開き、まだ20代後半くらいに見える男性が入ってきました。



彼は、私達を見るとほこらしげに、私と美樹さんの前に立ち止まりました。

「偉大なる祖先よ、初めの人よ。

私はあなた達から生まれました。

あなた方がいたからこそ、今の地球があります。

私は、あなた方の事を、心から誇りに思っています。」

彼は礼儀正しく頭を下げました。

私は「初めの人」という言葉が気になり、評議会のリーダーに尋ねます。

リーダーはにこやかに笑って答えます。

「初めの人という言葉は、21 世紀の地球のアセンションをきっかけとして生まれてきた人類の一番最初の人あなた方 2 人であるという意味です。

あなた方 2 人から、新しい能力や感覚を持った人類が生まれてきたので、人類の始祖という意味で、私達はあなた方の事を「初めの人」と言っています。」

「さあ、其れでは行きましょう。

皆さんがあなたの事をまっていますよ。」

リーダーはそういつてこの部屋の奥にある扉を開いて通路を歩いていきます。

私達も後を追ひ、通路を歩いていくと、その先には、大変大きな会議場があります。

私は一瞬、息をのみ、周りを見渡しました。

私達の 21 世紀の時代に、私は様々な銀河や星団のリーダー達を集めて宇宙の平和のために活躍する「ユニバーサルパレス」という評議会を作りましたが、まさにその未来版ともいえる姿がここにありました。

いえ、その時よりも比べようもなく大きく、叡智に満ち、光にあふれています。

私達が会議場の中に入っていくと、21 世紀の地球と同じように、全員が立って拍手をしながら、私達を迎えてくれます。

一体どれほどの人達がここにいるのでしょうか、様々な姿をした数万という人達が、周りを自らの光で埋め尽くし喜びの気持ちを表しています。

私は、リーダーから会議場の中心に案内され、何か挨拶をするようにとお願いされましたが、そこに立っているのがやっとです。

リーダーが、私達が来ることがわかっていて、メンバー全員が集まってきてくれたことを私に告げます。

私は、感動で涙があふれ、言葉が出てきません。

あふれる拍手の中で、しばらく周りを見つめています。

そして、ゆっくりと話始めます。

会場の拍手が鳴り止み静けさが、私を包み込みます。

「皆さん、私がこの 4 万年後の地球で皆さんとお会いできたことを心から嬉しく思います。

私達が、仲間と共に 21 世紀に行ったアセンションが成功することで、このようなすばらしい未来が開けたことを心から誇りに思います。

そして、その当時私と共に働いてくれた仲間たち、アセンションが成功してから地球と宇宙の未来のために働いてくれた全ての人々の事を誇りに思います。

皆さんが、この宇宙で果たしてくれた役目はとても大きいものです。

今も昔も、皆さんの誠意ある行動は、この宇宙にとってかけがえのない宝物です。」

私はこれ以上言葉にならず、その場に立ち尽くしてしまいました。

会場では、再び大きな拍手が鳴り響き、皆さんがそれぞれの星の言葉で喜びを表しています。

私は、涙で顔をくちやくちやにしながら、会場を後にします。

もう何も言う事はありません。

私達はフェニックス号に戻り、21世紀の地球へと戻る事にしました。

## 第3章 核の汚染から星々を守るスターピープル

### PART1 デセピア星人による警告

デセピア星人は、シリウス星系の星から来た人々で、かつてシリウス星系で起こった大きな核戦争によって被害を受けた星の子孫です。

彼等は、自分達の星が核兵器によって破壊された後に、このような事を2度と繰り返してはいけないと考え、近くの惑星に移り住んで、放射能の研究を行い、その対処法を考えてきました。

デセピア星人は優れた叡智と技術で、核や放射能の影響をうけた星々の救済を行ってきました。彼等は、地球の放射能汚染にも深く心を痛み、その解決のために、地球にも来てくれたのです。しかし、地球は、まだ他のスターピープルとの交流がなく、閉ざされた星となっているので、彼等が持っている放射能汚染を解決するための技術や知識を使うことが出来ません。地球がアセンションを行う事で、スターピープル達と交流することが出来るようになったら、彼等が持つ放射能汚染を解決する技術は、この地球を大きく変えていくことでしょう。

そして、彼等は今一つ大切なことを教えてくれました。其れは、地球だけでなく多くの星々に、核の技術をもたらし、星々を放射能汚染によって潰滅させた種族の事です。そして、その危険極まりない種族がすでに地球に入り込んでいることも。今回は、最初にデセピア星人が私達に語ってくれたことから、ご紹介しましょう。

デセピア星人である私達は、地球の放射能汚染の問題に対処する為にやってきました。福島原発の事故によって、福島は放射能がどのような影響を人々に及ぼすかを調べるための実験場所となっています。福島はすでに生命体が住めない場所、住んではいけない場所です。

福島に住む人々のDNAは傷つけられていますし、今も傷つき続けています。放射能汚染がある場所に住むなどという事は、他の星では絶対にありえないことです。この事故は、放射能汚染の広がりの事を考えても、日本だけでなく地球規模で対処すべき事故なのです。

しかし残酷なことに、地球の指導者達は、放射能が人間に与える研究をできる良い機会だと考え、福島の人々を人間モルモットとしています。そして日本人だけでなく、人種別に放射能の影響を研究する為に、海外にも日本の原発を輸出しています。地球人の放射能に対する扱いはあまりにもずさんで危険に満ちています。

放射能の危険性や特質を良く知らないのに、このような乱暴な使い方をしている地球人が信じられません。宇宙の他の星々に住む人々にとっては、放射能の危険性は明らかですので、各星に住む人々は、皆さん放射能や核を手放しています。

地球に置いては、この核や放射能に関する知識は、レプテリアンだけでなく闇の創造主やプレデターから教え込まれた知識です。

彼等にしてみれば、核の事故を起こし放射能汚染のデータを集めるには、地球はとてもやりやすい環境なのです。

日本を汚染している放射の数値は、日本政府が発表している数値とは異なっています。

福島だけでなく東京や関東も汚染されています。

原発が有る場所では、事故が起きなかったとしても、放射能が微妙に漏れており、植物の変異、昆虫の変異があります。

また自然の汚染だけでなく、今迄猛威を振るう事がなかった病原菌も、放射能によって突然変異をおこし、凶悪なものとなってしまいます。

すると通常のワクチンなどは効かなくなり、大きな被害が出る可能性もあります。

今私達が、心配するのは、福島の子供達が、政府が発表するよりも数多く死んでいる事です。

原因が分からず突然死んだ子も多くいます。

また、病院などでは、放射能を受けた子供たちを癌として診断しないようにしているようです。

ストレスや精神的なことが原因で死んでしまったように処理しています。

子供たちをすぐに他の場所に移住させ、適切な治療を行えば治る子供もいたかもしれません。

病院に対して政府が圧力をかけているため、子供たちが癌ではないと思いきまされているのです。

災害の津波や地震が子供たちに精神的なストレスをかけ、亡くなくても仕方がないと泣き寝入りをさせているのです。

福島の人達は、自分達の土地を絶対に見捨てない、大事にするという考えが先祖代々語りつがれているので、彼等は福島の土地を捨て離れることが出来ません。

本来では住めない場所も、捨てられない、その様な考え方をしている人々が住んでいる場所を選んで、原発事故を起こし、その被害状況を調べているのです。

私達は、このような純粋な性格を持っている人達を、被害者にあえて選んだことに、強い憤りを感じています。

福島の放射能による被害は、地球外生命体達が、あえてこのような場所を研究場所として選んだのです。

それでは、どのような地球外生命体が、この宇宙と地球に核や放射能をもたらしているかという事についてお話ししましょう。

皆さんに分かり易い言い方をすると、レプテリアンを生みだした地球外生命体が、この地球に核を持ち込んだのです。

彼等は、レプテリアンを操っている地球外生命体ですが、彼ら自体は、非物質的な存在なので、レプテリアンとひとつになったり、地球人と同一化して地球で活躍しています。

この種族がレプテリアンを利用して様々な星を放射能で汚染しているのです。

彼等はとても古くから存在している種族で、レプテリアンの先祖とも関わり、核を開発し、様々な星に核を持ち込んだのです。

彼等はグレシャッド星人という名前ですが、「宇宙の悪魔」などとも呼ばれています。

彼らは、破壊的な行為、殺戮、争い等ネガティブな事が大好きな存在で、人々の意識をコントロールして、自分の都合がよいように利用します。

そしてそのような人々を使って、核兵器や原子力発電を開発し、放射能汚染を起こさせているのです。

ただ、非常に狡猾で知能が高く、高度の技術を持っていますので、彼等を処理する方法が、見つからないから困っているのです。

ファースト・コンタクトの後に、地球の人々の意識が一つになると、この存在を追い出すことが出来るのですが、それはまだ難しいようです。

人とひとつになったグレシャッド星人は単独でも凶悪な行動を引き起こします。

テロや戦争を引き起こし、核兵器の使用を伴う戦争へと人々をむかわせることでしょう。

そうすると、一気に地球の放射能汚染は広がり、地球のオゾン層を抜けて、宇宙にまで広がっていくことでしょう。

## PART2 グレシャッド星人の捕獲作戦

私は、デセピア星人から初めてグレシャッド星人の事を聞いて驚いています。

他のスターピープルも、地球の核や放射能について大変危険視しており、このアセンションをきっかけとして、この問題を少しだけでも解決しようと考えているようです。

アシュタールのエレナさんも、デセピア星人を伴って私のもとに来てくれたのですが、このグレシャッド星人のことも良く知っているようです。

「TAKESHI さん、このグレシャッド星人は、私達が今まで立ち向かった地球外生命体のボスのような存在であることに間違いはありません。

彼等は、まず表に出ることがないので、その本当の姿や能力は誰も知らないのです。

もし彼等が地球に来ているとしたら、これは大変なことになると思います。

グレシャッド星人は、私達をはるかに超えた能力と知恵、そして残忍さを持っていますので、地球のアセンションは、核戦争と共に一瞬のうちに無くなってしまう可能性もあります。」

私も、デセピア星人から、グレシャッド星人の事を聞くと、この事に対してアセンションを行う創造主はどのように考えているのかと心配になってきました。



私は、現在、創造主の最高次元にいる「光彩の創造主」を呼び出し、グレシャド星人の事について聞いてみることにしました。

「TAKESHI さん、グレシャド星人の事です、実は彼等が直接地球に入っているという情報は、私はあまり知らないのです。

もしそうだとすれば、これは大変なことになってしまいます。」

私もエレナさんも、「光彩の創造主」の言葉に、拍子抜けをしてしまいました。

これほど大きな問題なのに、アセンションの担当創造主が知らないとなると、かなり危険です。

その時、「光彩の創造主」のさらに上の位置にいらっしゃる「暁の創造主」が出てこられました。

「暁の創造主」は「光彩の創造主」を生みだした親のような創造主様です。

私達もまさかこのようなタイミングで更なる高い次元の創造主が出てこられるとは想像もしておりませんでした。

「TAKESHI さん、そしてスターピープルの皆さん、地球のアセンションに向けて協力してくださり大変ありがとうございます。

グレシャド星人の事に関しましては、私達も大変心配しております。

これは地球の問題だけでなく、さらに多くの星々の問題ですので、私達もグレシャド星人を捕えたいと願っております。

実は地球のアセンションは、この事に関しても、ひとつの計画を持っております。

現在、多くのグレシャド星人がこの地球に来ています。

そして、ディセンションする世界で活動の場所を広げ、さらに多くのグレシャド星人が集まってきています。私達は、この機会にグレシャド星人達を、地球のディセンションした世界に閉じ込め、完全に隔離することで、他の星々にグレシャド星人が影響を及ぼさないようにしたいと思っているのです。」

「光彩の創造主」が驚いたような顔をして言います。

「「暁の創造主」よ、私はそのことを知りませんでした、いつそのようなことが決まったのですか。」

「この計画は、あなたにも極秘で進められていましたので、知らないはずです。」

この一言に、「光彩の創造主」は、ムツとした表情をします。

まるで親から仲間はずれにされた子供のようにです。

「「暁の創造主」よ、それでは、この危険極まりないグレシャド星人を、わざと地球に呼び寄せ、地球のディセンションした世界に閉じ込めるとするのは、創造主様の計画なのですね。

多くのグレシャド星人が地球に集まることで、地球のアセンションに対する妨害などは起きませんか。

私達も、子供が生まれる前の大切な時なのですが、私達や子供に対して危害が加えられたりしませんか。」

私は心配になって創造主に尋ねました。

「TAKESHI さん、心配しないでください。

グレシャド星人は私達がしっかりと見張っていますし、彼等には異なる映像を見せて、皆さんの姿やアセンションの進行状況を見せないようにしていますから安心して下さいね。」

私達もデセピア星人も創造主の言葉に安心しました。

創造主が、グレシャド星人の事を知って、その潰滅のために計画を立てているという事がとてもうれしく思

えたのです。

私達は、「暁の創造主」の言葉を信じて、もうしばらくグレシャド星人たちの事を見守ることにしました。

### PART3 多次元宇宙でも最高の叡智を持つロッド星人

私達は、デセピア星人と会見した翌日から、実家の両親に会いに行くために長崎に帰ることにしました。そして、長崎では、グラバー邸や長崎の原爆被爆地を巡り、いくつかの地球外生命体やプレデター型生命体の拠点を、スターピープル達と共に光に返していきました。

長崎から帰ってきた私達を待っていたのは、ロッド星人と呼ばれる大変叡智が高いスターピープルです。彼等は、私達が属する宇宙以外の宇宙から来てくれたスターピープルで、姿も通常のスターピープルとは大きく異なります。

彼等は、特別の存在のようで、通常は物理世界にいる人は、自分達の大きなエネルギーに耐えきれないはずなのですが、私達が平気で彼等と接していることを不思議がっています。

しかも、美樹さんを通して、普通に会話できていることに驚いたのか、様々な角度から私達を見て分析しているようです。

私達も不思議に思い、私達の宇宙では、最高の叡智を持つエリシタール星人にきてもらい、ロッド星人の事を聞いてみました。

「彼等は、私達が属している宇宙だけでなく他の領域に存在する宇宙の中でも、もっとも優れた叡智を持つスターピープルの一人です。

私達も、彼等の事を尊敬し共に活動することもあります。

彼等は、多くの星の者達を救っています。

様々な銀河や星々からのSOSを受け止め、助けたほうが良いか、見守ったほうが良いか、冷静に考えたうえで行動します。

この宇宙には、彼等にしかできないことがたくさんあり、彼等は献身的に働いています。

しかし、その星に住む人々が、彼等に助けられたという事が分かると、彼等は依存されてしまうので、自分達の力で問題を解決させるように仕向けています。

彼等は、様々な星の人達が、自分の力で問題を解決して自立心を高めるように働きかけているのです。」

私達はロッド星人と地球の事や宇宙の事について様々な話をしました。

そして、前回のデセピア星人に引き続き、彼等も、地球の核や放射能問題、そしてそれを引き起こしたグレシャド星人に対応する為に、遠い宇宙からやってきてくれたことが分かりました。

ではロッド星人のメッセージに耳を傾けましょう。

私達、ロッド星人は、天の川銀河から遠く離れた銀河から地球のアセンションをサポートするためにやってきました。

地球のアセンションが失敗すると、地球のネガティブな波動が、他の宇宙に広がり、星々の間に争いが起こ

ったり、渾沌とした状態を生み出すことになりますので、多くの星々の人々に迷惑をかける事になります。

地球のアセンションが成功するならば、地球のみならず天の川銀河の波動は、平和のエネルギーで満たされていきます。

そのエネルギーは、天の川銀河から他の銀河にも伝わり、宇宙のすべての星が平和になっていきます。

そして遠く離れた私たちの銀河にもとても良い影響が与えられます。

地球のアセンションが成功することによって、天の川銀河の良い波動は、全ての銀河に伝わっていくのです。

たとえば、小さな池や泉に水滴が落ちると、そこから波が広がるのと同じようにその影響が広がっていきます。

しかし、その水が、清らかな水であるといいいのですが、特殊なウイルスや菌を含んだ水であれば、その一滴により池や泉に生きていた魚や生物たちは、傷つき滅んでしまいます。

ほんの一滴の水でも、その水の特質によって、池や泉全体が影響を受ける事があるのです。

もし、地球がアセンションに失敗するならば、宇宙という水たまりに、汚い水を落とし、宇宙の中に黴菌やウイルスをまき散らすことになってしまいます。

宇宙の中でも抵抗力が弱い星の人々は次々と傷ついていくかもしれません。

なぜ、アセンションを機会にこのような事がおきるかというと、地球は今まで光の存在達が多くのことを学ぶために、様々な地球外生命体達が自由に関われるようになっていました。

地球人は、彼らの影響を受け、さまざまな価値観を持ち、自意識と欲望を育ててきました。

それは通常の星では起きないことですが、地球は闇に満ちた特別な星ですので、他の星々のディセンションした地球外生命体の干渉も許されてきました。

そして、地球には、核を好む地球外生命体も関わり、地球の中で核兵器や放射能を生み出す原子力発電所が作り出されたのです。

そのために、地球は、他の星々に迷惑を掛けない様に今まで隔離されてきました。

たとえ、核兵器や放射能汚染があったとしても、その影響力が地球の中だけでとどまるように隔離されてきたのです。

しかし、地球の技術では、核兵器の使用や原発事故によって、大量に漏れた放射能を処理することが出来ず、宇宙にまでその影響は及んでしまいました。

これからアセンションをきっかけとして、光の地球は、他の星々との交流が始まります。

その時、今まで地球を隔離していた隔離は解かれることになります。

地球が本来のすばらしい光の地球になっているといいいのですが、地球のエネルギーがもし悪ければ、他の星々にも大きな影響を与えてしまいます。

地球が隔離を解かれたなら、地球の荒々しい波動や放射能、様々な汚染物質に対する抵抗力がない星は大きな影響を受けてしまいます。

私達は、地球が無理なくアセンションできるように最適な方法でサポートします。

私達が見たところ、地球では、水に関わるエネルギーを持っている物達が、傷つき弱っています。

そして水自身も汚されています。

特に福島原発の放射能によって海が汚され、その水を他の生命達が飲むことにより、放射能が魚や海藻などの体の中に蓄積されていきます。

私達は、スピリチュアル・レベルで、水の浄化を行い、水に関連する者達のエネルギーをクリアーにしたいと思えます。

私達の体の中には、大変、高い波動を持ったクリスタルが組み込まれています。

クリスタルのパワーを使用して、水の浄化を行いたいと思えます

何故、私達がそのような事を行うかという、私達は、元々魚のような種族であったのですが、何回もアセンションを繰り返し、クリスタルと一体になることで、今の自分達になりました。

其の為に、私達の体は、ネガティブなエネルギーを吸い込みやすく、汚い水や波動によって汚染されてしまう事が良くあります。

そうすると自分達は、エネルギーを失って、生きる生命力さえも弱ってしまうのです。

核や放射能などのネガティブなエネルギーを持つ星は、本来は宇宙のルールで隔離されていて放射能汚染が起こったとしても、問題は、さほどありませんでした。

しかし、地球のアセンションによって、地球の隔離が終わると、もし、光の地球にネガティブなエネルギーが残っていたら、そのエネルギーは、宇宙にむかって放射されることになります。

地球の中でも、そのまま核を保有するディセンションした地球は、引き続き他の宇宙から隔離されますから、まだよいのですが、アセンションした地球は、他の宇宙にとって完全に開かれます。

アセンションまでに、光の地球が完全に出来上がっていればよいのですが、闇の力が大きいと、光の地球は闇にのみ飲み込まれることになります

そうすると光の地球に核や放射能が残ることになり全ての星がその影響をうけることになるのです。

地球の隔離が解かれることは決定していますので、その時までには、地球の闇と光を分離していなければ、闇の地球のエネルギーも開放され、闇の力が宇宙に広がってしまうことになります。

すると他の銀河にも悪い影響が与えられるでしょう。

私達から、地球のアセンションの状況を見ると、現実世界の分離はまだ不十分ですし、スピリチュアルなレベルでのアセンションも、土台レベルしかできていないと思えます。

地球のアセンションが遅れている理由は、地球人のスピリチュアルレベルがまだ低いため、光の地球を守る地球人が少ないためです。

地球人のスピリチュアル・レベルが低い理由は、人間の DNA に問題があります。

現在、地球に住む人々の DNA が傷つけられているので、人間は、本来持っている体力や能力を十分に発揮することができません。

また、本来持っている素晴らしい精神力や判断力も奪われています。

闇の世界を確立したい者は人間の DNA を操作して人間の本来の力を発揮できないようにしています。

そうすることで、人間の多くが抑圧され、支配者に従順に従うようにされているのです。

地球の人々が DNA の障害や放射能汚染をうけていなければ、地球人はもっと気力やパワーを持って生きていくことができます。

たとえ、地球外生命体が来たとしても、自分達の考えを貫き通し、簡単にだまされたりしません。

しかし、地球人は放射能汚染やパソコンやスマホなどの電磁波に常にさらされて続けています。

そのために、DNA を傷つけられ、本来の力を発揮できなくなりました。

地球人が望んでそうなのではなく、より高い能力を持つ者たちからそのようにされてしまったのです。

私達は、まず最初に水を浄化し、水の中から放射能を取り除き、純粋な水の状態に戻すことから始めたいと思っています。

水はあらゆるものに関わっています。

人間だけでなく、地球に生きるものすべては、水がないと生きていけません。

しかし、その水が汚染されているのは、人間だけでなく、地球の生命、そして地球そのものの汚染となります。

私達がかかわることで少なくとも、スピリチュアル・レベルでは、水の汚染は取り除けます。

スピリチュアル・レベルの生命達は、放射能汚染がない状態にしていくことはできます。

しかし、物理世界の水の汚染を解決するためには、地球の人々の努力が必要です。

放射能に限っては、肉体だけでなくスピリチュアル・レベルにも大きな影響を及ぼします。

肉体を汚染された人が、苦しみや悲しみの声を発すると、それはその人のスピリチュアル体の持つ波動にも大きく影響します。

その声に込められた波動が、様々な銀河を通りぬけ、クリスタルの体質を持つ私達の体やスピリチュアル体に吸収されていきます。

私達は、その声の持つ悲しみの波動によってエネルギーのバランスを崩し、自分達の生命さえも脅かされてしまう事になってしまいました。

そうすると当然、私たちの星のエネルギーも影響を受け崩れてしまいます。

私たちは、その原因となる星を探していたところ地球に行きつきました。

地球の核を絶たないと、その声は止むことなく次々とやってきます。

各地の原子力発電所の放射能や日本に落とされた原爆、核兵器の使用や実験によって苦しんでいる人々がたくさんいます。

彼らの苦しみの声が、止めどもなく来ることで、私達の体や私達の星は大きな影響をうけています。

地球では、たくさんの人達が、核や放射能の犠牲となり、苦しみの声を上げています。

その声は、地球そのものの悲鳴となっています。

私達は、核や放射能によって苦しむ人達を救うためにやってきました。

他の星では核を利用している者達は、核の恐ろしさや危険性もわかって使用しています。

たとえ核の被害を受けたとしても自己責任ですので、私たちは彼等を助けることはしません。

ただ隔離するのみです。

地球の人々は、放射能汚染の本当の意味を知らされておらず、その危険性も十分に理解していません。



核が大好きな地球外生命体に操られた電力業者や政府によって、核や放射能は安全だとだまされ、その脅威も知らずに、犠牲になっているのです。

しかし政府が、放射能に反対する人々の意見を押し切って、核や原発を使用したために、放射能汚染を受けた人々の苦しみはますます大きい物となってしまいました。

放射能の事を認めていないのに、その被害を受けてしまった人々を私達は救いたいと思っています。

危険な放射能や核から地球と自分達の子供たちを守りたいと思っている人達は、地球から核をなくしたいと強く願っています。

それは、人間だけでなく、地球の動植物、エネルギー体を含めて、多くの存在達が、自分たちの世界から核を追い出し、核による被害をなくしたいという悲痛の声を上げています。

地球の分離がうまくいくと核を持った世界をディセンションさせ、しっかりと隔離することが出来ます。

そして、核を望まない人たちをアセンションさせる事で、その人達を光の世界に導くことができます。

しかし、其のためには、皆さんがしっかりとした判断力や理性を持つ事が大事です。

光の世界に行く人たちは、光の世界を維持する為に働くこととなりますので、それに見合った人でないといけません。

光の世界を守るための条件にかなった人達が少なくてもよいから必要なのです。

私達は、そのことを皆さんに深く期待しています。

ロッド星人のメッセージはとても力強く叡智あふれる存在であることが分かります。

そしてデセピア星人とロッド星人がそろったことにより、地球のアセンションは、思わぬ方向に大きく動き出すこととなります。

## 第3章 創造主の子供が誘拐される

### PART1 私の家の上空に開いた黄泉の世界のゲート

私達がロッド星人との会談が終了して休もうとするときに、最近、私達の自宅の上部から重たいエネルギーが流れてきていることに気づきました。

何かこの地球に異変が起きていることは確かですので、仲間たちにすぐに調べてもらう事にしました。すると、私達の家の上空に「黄泉の世界」のゲートが開かれていることが分かりました。

「黄泉の世界」のゲートが開くことによって、そこから死者達の重たいエネルギーが流れ込み、死者達のまだ生きたいという思いが、私達の生命エネルギーを蝕んでいくのです。

この「黄泉の世界」から開かれたゲートは、今迄に何度も何度も故意に開かれ、私達や光の地球へのサイキックアタックに利用されてきました。

それは「黄泉の世界」は、現実世界とスピリチュアル世界をつなぐ世界でもあるので、物理世界に生きている存在もそうでない存在も両方関わる事が出来るからです。

この「黄泉の世界」の特性を利用して、スピリチュアルな世界に生きる地球外生命体や創造主が、私達や光の世界に「黄泉の世界」の存在達を使って攻撃を仕掛けてくるのが良くあります。

しかも「黄泉の世界」にいる人は、自分と関係が深い物理世界に生きている人の感情や思いを利用して特定の人にエネルギーを送ることが出来るので、スピリチュアルな世界にいるスターピープルや創造主達では、そのエネルギーを完全に防御できません。

この日も、陰陽師に関係している人々を通して、私達のもとにエネルギーを送って来ているようです。私達の体も非常に重く不快な感じがします。

そして、陰陽師だけでなく様々な存在が、突然そのゲートからあふれるように私達の世界へ飛び込んできました。

元々は人間であった存在やすでに人間である事を忘れ去ってしまったような存在まで、様々なエネルギーが、私達の光の世界へと入り込み混乱を引き起こしています。

私達は、「黄泉の世界」を統治する創造主である「有明月の女神」や「黄泉の世界」の守護者たちを呼んで状況を聴きます。

「有明月の女神」が答えます。

「TAKESHIさん、本当に申し訳ありません。

物理世界に生きる人々が、陰陽師のエネルギーをつかって、「黄泉の世界」の扉を開いたようです。

今、私達もそのことに気づいて処理しているのですが、もうしばらくお待ちください。」

「黄泉の世界」を守護する大天使アズラエルや大天使ミカエル達も応援に来て、「黄泉の世界」からこちらの世界に出てきた存在達を処理しています。

私達は、ゲートを管理する創造主達におねがいして「黄泉の世界」のゲートを閉じることにしました。

しかし、誰がどのような目的でこのような事をしたのでしょうか。

「黄泉の世界」の統治者の一人が、言います。

「「黄泉の世界」は、現在様々な規制が、皆さんによって作られ、普通の人々や地球外生命体達は自由に入りが出来ないはずですが、かなり高い能力を持った存在が、地球に生きる人を通してゲートを開いたようです。

特に陰陽師は、この「黄泉の世界」の力を使って術をかけますので、「黄泉の世界」のゲートを開きやすいのです。」

私は、その話を聞いて、「黄泉の世界」を統治する創造主達やスターピープル達に、「黄泉の世界」の管理をさらに厳重にするためのルールを作ることにしました。

其れは、「黄泉の世界」と物理世界の間ゲートを開くことを禁じる為のルールです。

「それでは、皆さん、これからも「黄泉の世界」のゲートが、かつてに開かれることがないように、新しくルールを作りたいと思います。

其れは、生きていた人が死んだ場合と死んでいた人が再度生まれ変わる時を除いて、「黄泉の世界」の管理者の許可なく、「黄泉の世界」と地球の物理世界の間ゲートを開いてはいけない。

というルールにしたいのですが、いかがでしょうか。」

「黄泉の世界」を統治する創造主とスターピープルを交えていくつかの意見が出ましたが、大方、このルールでいいようです。

地球の「黄泉の世界」は、いくつもの世界が複雑に絡み合っているため、ルールは簡単なほうが良いようです。

私達は、この新しいルールが、「黄泉の世界」に定着するように公示を行いました。

これで、あえて「黄泉の世界」のルールに反して、物理世界へのゲートを開く者もいなくなることでしょう。

## PART 2 子供のスピリットがさらわれる

私達にとって本当の恐怖は、その直後にやってきました。

私達が、就寝中、明け方近くに美樹さんが、自分の体に覆いかぶさるようなエネルギーを感じ、恐怖に襲われました。

明け方、気になって子供に声をかけてみましたが、反応がありません。

美樹さんは、自分の子供といつもテレパシーで会話していますので、子供の状況は良くわかるのですが、この時は、美樹さんが何度、声をかけても、子供からの反応がありません。

美樹さんの顔が青ざめていきます。

お腹がとても空虚な感じがしているのです。

もしかしたら、お腹の中で育っていた子供が、その時生命を奪われてしまったかもしれません。

美樹さんは、言葉を失い、茫然としていました。

そして、私にその事を言えないまま、絶望の中で子供に呼びかけたり、創造主やスターピープルにお願いして、自分の子供を探してもらおうようにしていたのですが、うまくいきません。

しかも、美樹さんの脳神経の中に特別なコードが埋め込まれ、そのことを私に言うこともできなかったよう

です。

私が、彼女とお腹の子供の異変に気づいたのは、仕事が終わって帰ってきてからの事でした。

美樹さんが、とてもやつれた表情をしていたので、何があったのか尋ねたところ、子供のスピリットがさらわれてしまった事を、彼女は私に打ち明けました。

ただ、其れまでに、先日現れたロッド星人が、子供の生命エネルギーを感知していますので、まだ生きている事だけは確かです。

私は、ロッド星人に、何が彼女に起こったのか尋ねました。

「これはおそらく、地球に核を持ち込んで支配を企むグレシャッド星人達が、裏で動いているようです。彼等は、もうすでに地球のアセンションと皆さんの関係を知っていて、アセンションの鍵となる皆さんの子供たちのスピリットを誘拐したのだと思います。

しかし、彼等は、直接手を下すことはしませんので、他の誰かに命令してやらせたのだと思います。」

私は、グレシャッド星人が直接私達に関わってきたことに大きな恐怖を覚えました。

「確かに、今残されている問題は、グレシャッド星人の処理だけかもしれませんが、「暁の創造主」は、グレシャッド星人達には、私達の姿が見えないようにしているとおっしゃったので安心していただけです。」

私の言葉にロッド星人が、仕方がないという顔をして応えます。

「創造主達は、この物理世界の事は十分に理解していません。

本当の事を言うと、彼等からは、この世界の事は良く見えないのです。

スピリチュアルなレベルでそのような処理をしていたとしても、物理世界ではうまくいかないことがよくあります。」

「確かにそうですね。

私達も、創造主が考えている事と現実世界で起きている事のギャップに悩まされることがよくありました。」

「おそらく、グレシャッド星人はすでに、皆さんの事には気づいています。

これだけ派手に偽アシュタールや紫ピラミッドのグループを片付け闇の世界の創造主を処理すれば、誰が物理世界で動いているのか一目瞭然です。

あなたが、片付けた連中は、ほとんどがグレシャッド星人の部下ですから、あなた方の事はもう早くから知られています。」

「それでは、なぜ彼等は、私達を攻撃してこなかったのですか。」

「いえ、様々な部下を使ってあなた方の仕事の邪魔をしていましたが、自分たち自身が姿を現すと、多くのスターピープル達に、グレシャッド星人が地球に来ていることがばれてしまうので、あなた方に対して直接関わる事はありませんでした。

しかし彼らの部下がほとんど処理されてしまったので、彼等が本格的に動き出したようです。

其れよりも、あなた方の子供を早く助けに行かないと。」

私は、ロッド星人のその言葉で、はっと我に返りました。

今すべきことは、美樹さんのお腹の中から連れ去られた子供をすぐにでも取り返すことです。

私は、スターピープルと創造主達をすぐに集めました。

そして子供の救出の方法について相談しました。

通常は、美樹さんの体に残されたエネルギーの反応から相手のいる場所を探すことが出来るのですが、この時は、途中でエネルギーが消えていて、どこに子供が連れ出されたのか調べる事が出来ません。

何か創造主クラスの特別なエネルギーが働いているようです。

もしかしたら、未来から来た創造主の仕業か、私達の世界とは異なる宇宙の創造主の仕業かもしれません。

私達は、犯人を特定する為に、子供が奪われた時間まで戻る事にしました。

フェニックス号で、其の日の明け方まで戻り、美樹さんを見張っています。

ちょうど「黄泉の世界」からあふれてきた存在達の処理が終了した後の出来事ですから、どこかに隠れていて私達から処理される事を免れた存在達がいたようです。

その存在が、疲れて寝てしまった私達に静かに近づいてきます。

そして、彼女の体の中で休んでいる子供のスピリットを引っ張り出すようにして、体から分離しさらっていかうとしています。

その存在が、子供のスピリットをとらえ、私達の家を出るとすぐに、消えてしまいました。

どうも、私達の家近くに特別な通路が準備されており、異なる空間を通過して別の宇宙へ逃げたようです。

ロッド星人は、すでにその空間を見つけだして、子供のスピリットがどこに連れていかれたのか、調べる事が出来たようです。

ロッド星人が私達に教えてくれたことは、とても深刻な問題です。

「TAKESHI さん、彼等は異なる宇宙の創造主達によって、この空間から異なる空間へと移動させられています。

あなた方の子供達は、皆さんの宇宙とはことなる宇宙の創造主達のもとにあるようです。

この世界の創造主では、問題を解決することが出来ません。

出来れば多次元宇宙を統括する創造主と共に行かれたほうが良いでしょう。

その場所は、私達のご案内いたします。」

私は、「虹彩の創造主」の上位の創造主であり、今回グreshydd星人を使える計画を立てた「暁の創造主」を呼び出しました。

「偉大なる「暁の創造主」よ、本当に大変な事になってしまいました。

アセンションの要である子供のスピリットがさらわれてしまいました。

おそらく、グreshydd星人が裏で操っているようです。

私達の姿は、彼等には見えていない、とあなたは言われたのに、実際は、私達の事や私達の計画は、すでにグreshydd星人に知られており、一番大切な子供を奪われてしまったのですよ。」

私は、大きな声で創造主に文句を言ってしまいました。

「暁の創造主」は、私達に対して大変申し訳なさそうな顔をしています。

「TAKESHI さん、美樹さん、本当にすみません。

「記録の創造主」と「予測の創造主」に綿密に計画を立てさせ問題が起こらないことを確認しておこなっていたのですが、私達の計画が、彼等に知られていたとは・・・」

創造主は言葉に詰まります。

ロッド星人は、私達を見て声をかけます。



「グレシャッド星人は、私が知る限りの宇宙の中でも、最も悪賢く残忍な地球外生命体です。彼等は、TAKESHI さん達の存在に早くから気づいていましたが、気づかないふりをしていたのです。其れは、創造主や皆さんを油断させておいて、アセンションを最後の最後にひっくり返す計画を立てているからです。

そしてその計画が実行され始めたようです。

時間がありません、私が子供のスピリットをさらった宇宙へのご案内しますので、多次元宇宙の創造主を生みだした創造主様に同行してもらい、急いでいきましょう。」

私は、「暁の創造主」に質問します。

「これから行く世界は、私達が存在している宇宙とは異なる宇宙ですが、「暁の創造主」よ、あなたの権限で統治できている宇宙ですか。」

「暁の創造主」は、困ったような顔をして首を横に振ります。

私は、それをみて、えっ！と不満の声を出してしまいました。

その時、私達の前に大きな光をまとった創造主様が現れました。

その創造主は、今までにない純白の光をまとった「神聖なる光の創造主」と呼ばれる創造主様です。

「TAKESHI さん、美樹さん、今回は私どもの創造主の不手際を心からお詫びします。

あなた方の子供は、私達にとってもかけがえのない創造主の子供です。

その子供を失うという事は、地球のアセンションを無に帰してしまう事なのです。

私達も全力をかけてお守りします。

あなた方の子供たちをさらった創造主は、私が統治する宇宙の創造主ですので、私が皆さんに同行いたしましょう。」

「神聖なる光の創造主」が、私達の前に現れることで、私の怒りも収まってきました。

美樹さんも、取り乱していた気持ちを落ち着け、子供を取り戻せるという希望が見えてきたようです。

私達は「神聖なる光の創造主」を伴って、異なる宇宙の創造主に会いに行くことにしました。

### PART3 子供のスピリットが戻ってくる

私達は、ロッド星人の導きにより、フェニックス号で私達の宇宙とは異なる宇宙に入っていきます。

そこは、まだ生まれたばかりの宇宙で、さほど大きくない宇宙です。

私達が行くと、すでに一人の創造主が、私達が来ることに気づき待っています。

しかも、自分達の宇宙を統治している偉大な創造主と一緒に来られたことで、すでに自分が犯したことを反省しているようです。

私達はその世界に降り立つと、その創造主は、大変気まずそうな顔をして立っています。

自分が行ったことを隠すことが出来ず、大きな罰が与えられることを覚悟しているようです。

私は、彼の前に立つといいました。

「今日は、私の大切な家族の事でやってきました。

私の大切な家族が、突然さらわれたのですが、あなたに心当たりはありませんか。」

彼は、おそらく自分がしたことを隠せば、さらに罰が重くなると考えたのでしょうか、素直に答えます。

「皆さんがいらした理由は、わかっています。

本当に申し訳ないことをしたと思っています。」

「創造主よ、これは申し訳ないという言葉で済まされるものではないのですよ、

創造主が、たとえ子供といえども創造主を誘拐するという事は、あなたは創造主の資格を失い、光に帰されても文句が言えないほどの大きな罪を犯したのですよ。

何故、そのようなことをしたのですか。」

創造主は顔を伏せたまま答えます。

「この子供の光があまりにも大きく素晴らしかったために、私達の宇宙にどうしても必要だと考えたのです。しかし、私の考えは間違えていたようです。

この子が、こちらの世界に来てからというもの、この子の光はすこしずつ弱くなってきました。

その様子を見て、私はしてはいけない事をしてしまったのだと気づきました。」

「創造主よ、たとえどんなに光が強くても、この子は地球の「光の世界」に生れてくるために、お母さんの中で育っている途中です。

彼女は、子供であったとしても創造主のスピリットを持っていますので、自分の身に何が起きたのかはすぐにわかります。

このままでは、彼女は大切な家族から引き離された事で、その光を失い、あなたの宇宙を絶望の闇で覆い尽くすでしょう。

あなたは自分の大切な宇宙、自分達がつくりだした生命を大きな闇にさらすことになるのですよ。」

「本当にあなたがおっしゃる通りです。

この子はすぐに、皆さんにお返ししたいと思います。

しかし、私はなぜ、このような事をしてしまったのでしょうか、私にもわからないのです。」

創造主は、私達に深く謝罪をしながら、子供のスピリットを丁寧に美樹さんに帰してくれました。

美樹さんのお腹の中に、再び光が帰ってきました。

空虚で悲しみのエネルギーに満たされていたお腹に、再び陽気で明るいエネルギーが戻ってきました。

子供が、お母さんの子宮の中にしっかりとしがみついています。

「私、お母さんの子宮の中に戻れてよかった。

もう絶対に離れないから・・・」

子供はそう言って涙ぐんでいるようです。

よほどさらわれたことが怖かったのでしょうか。

彼女のスピリットが、苦しみと悲しみの中で大きく傷つけられています。

でも、その傷はいつか癒えることでしょう。

すぐに大天使達がやってきて、子供のスピリットの傷を癒しているようです。

子供のスピリットはしばらくすると目に喜びの涙を浮かべながら寝てしまいました。

美樹さんも、自分のお腹の中に子供のスピリットが戻ってきたことで涙を流しています。

私達の宇宙の創造主達も、アセンションした地球のために生み出す子供が美樹さんのもとに戻ってきて安心しています。

もし、子供がさらわれたまま、戻ってこなければ、光の世界を統治する創造主のスピリットが不在になりますのでアセンションそのものが出来なくなるのです。

「創造主よ、あなたは、誰かにコントロールをうけて、私達の子供をさらったのではないですか。あなたの宇宙から、私達の宇宙には、通常入ることは許されていませんから、誰かによって私達の宇宙へとつながる通路を開いてもらったのではないですか？」  
彼は、どのようにして子供をさらってきたのか、よくわからないようです。

「創造主よ、申し訳ありませんが、あなたの体を調べさせてもらってもよいですか。」  
私は創造主の許可をもらおうと、ロッド星人にお願いして、体を調べてもらいます。  
しばらくして、ロッド星人がネガティブコードを見つけたようです。  
「TAKESHI さん、やはりありましたよ、やはりグレシャッド星人の物です。  
彼等は、私達にわからないように、この宇宙の創造主達を手なずけていたようです。  
そしてこの宇宙に隠れて、この宇宙の創造主を使って、皆さんの子供を誘拐する手はずをととのえたようです。」

その話を聴いて「暁の創造主」が、だまされた！というような顔をして言います。  
「私達は、「記録の創造主」と「予測の創造主」たちに綿密に調べてもらい、グレシャッド星人を捕えるために、様々な計画を立て、完全に TAKESHI さん達を守っているつもりでした。  
しかし「記録の創造主」と「予測の創造主」が調べたり予測できたりする範囲は、自分達が統治している宇宙の中だけのことでした。  
まさか、他の宇宙に隠れて、他の宇宙の創造主を使ってこのような事をしてくるとは想像もしていませんでした。」

ロッド星人はそのような創造主を見て言います。  
「皆さんは、物理世界の事を十分に調べもせず、論理だけで判断しようとするからこのような事が起こるのです。  
グレシャッド星人は皆さんが考えている以上に狡猾で手ごわい存在です。  
彼等が考えている事は、これで終わりではありませんので、私達もすぐに対策を練らなければなりません。」

たしかにロッド星人の言うとおりでです。  
すぐにでも地球の分離を進めアセンション成功させなくてははいけないようです。  
彼等は、すでにこのアセンションの中心は誰であるか、誰をつぶせば、アセンションが失敗するか、よく知っているのです。

私たちは、この宇宙を去る前に、この宇宙の創造主のリーダーにお会いすることにしました。  
なぜなら、この宇宙の創造主はもうすでに、グレシャッド星人によって支配され、この宇宙はやがて大変な暗黒宇宙になる可能性があるからです。

私達は、この宇宙の創造主を指導する創造主を呼び出しました。

私達の前に、清らかな姿をした創造主が現れました。

その創造主は「神聖なる光の創造主」の姿を見ると、その前にひざまずき許しを請っています。

「偉大なる創造主様、今回は皆様に大変なご迷惑をかけ申し訳ありませんでした。

どうかお許してください。」

「神聖なる光の創造主」は、目の前にひれ伏した創造主を抱きかかえるようにして立たせます。

「今回の事は、あなた方の宇宙の創造主にとっては、とても重要な学びです。

私と共に来た者達が、皆さんを助けてくれることでしょう。

どうか勇気を持って前に進んでください。

それでは、TAKESHI さん達お願いします。」

「神聖なる光の創造主」は、私達の前に、この宇宙を指導する創造主を立たせます。

「偉大なる創造主よ、私達は皆さんの事を恨んでいる訳ではありません。

ただこの創造主のように、この宇宙の多くの創造主達が、グレシャッド星人によってネガティブコードを入れられ操られているようですので、その問題を解決しましょう。

どうか、ここに全ての創造主を呼び出してください。」

およそ数 10 名の創造主がすぐに私達の前に現れました。

私達は、すぐにグレシャッド星人の話をして、彼等がつけたコードを探すと、ほとんどの創造主達がグレシャッド星人のコードをつけられていました。

その様子を見て、この宇宙の創造主達も驚いています。

私達が、彼等のコードを外してあげると、彼等も自分の意識を取り戻し、元気になったようです。

私達は、そのことを確認すると、すぐに自分達の宇宙に戻りました。

とにかく急いで行わなければならないことが待っているからです。

## 第5章 グレシャッド星人との地球をかけたの戦い

### PART1 急がれる地球の分離

私達は、自分達の宇宙に帰るとすぐにグレシャッド星人の対策のための会議を開きました。中心となるのはロッド星人です。

彼らは、グレシャッド星人のことを知り尽くしており、地球のアセンションの最大の妨げとなるのがグレシャッド星人であることを知って、彼らの宇宙から地球にサポートのためにやってきてくれたようです。彼らは、私達と同じように、創造主の世界にも入ることができ、創造主とも自由に話をする事が出来ます。おそらく、創造主達との深い関わりがあるのでしょう。

「TAKESHI さん、そして皆さん、グレシャッド星人は、創造主の皆さんが考えているように簡単に処理できるものではありません。

彼等は、すでに様々な人々とひとつになっており、地球の物理世界に深く入り込んでいます。

それは政治・経済の指導者だけでなく、光を持った人々がグレシャッド星人と関わる事により、光を奪われ、欲望の虜になりつつあります。

彼らは既にディセンションした世界だけでなく光の世界にも入り込み始めています。

私達が調べたところでは、もうすでに、光 50%の世界を超え、光 54%の世界にまで達しているようです。このままだと、彼らの介入は更に広がる事でしょう。

そうなるのであれば、分離された光の世界にも、グレシャッド星人が入り込んでいますので、光の世界の中で闇が広がりディセンションした世界と同じような世界になってしまいます。」

スターピープル達も創造主達も言葉を失っています。

彼等は、グレシャッド星人の恐ろしさを良く知っているからです。

「それで、グレシャッド星人の動きを封じ込めるためにはどのようにしたら良いですか。」  
スターピープルの一人がおそろおそろ尋ねます。

「すぐにでも、地球の物理世界を分離するしかないでしょう。

グレシャッド星人は、強い光は苦手ですが、適度の強さの光は大好物です。

彼等は、急に強い光りの世界には入ってくる事が出来ません。

しかし、少しずつ強い光りを取り込み、強い光りに慣れるとさらに強い光りを持つ世界へ入ってきます。

現在 54%の光りの世界にまで入ってきていますので、このままにしておくと、さらに光 55%や 56%の世界にも入ってきます。

すぐにでも、彼等がいる世界とない世界を分離しなければ、アセンションそのものが失敗するでしょう。」

「光 51%から 54%の世界を、光の世界から分離するという事になると、アセンションする世界は更に小さくなるのではないですか。

基本は 51%以上の世界がアセンションするように企画されているはずですが。」

と、創造主の誰かが言います。



「もちろんその通りですが、今はグレシャッド星人に侵略されていない世界を守ることが先決です。グレシャッド星人が入ったまま光の世界を分離すると、その光の世界そのものが、やがてグレシャッド星人の支配を受けディセンションした世界となります。

今は、小さくても確実に地球をアセンションさせる事が大切です。

これというのも、創造主が、グレシャッド星人を地球に集めて、地球のディセンションした世界に閉じ込めて、一緒に隔離しようなどという計画を立てた為に起こってしまったことなのです。

すでにこちらの計画はばれています。

後は時間の勝負です。」

私はロッド星人や他のメンバー達の話聞き結論を出さなければなりません。

「皆さんお話は良くわかりました。

それでは、地球の光 55%と 56%の間で完全分離を行う事にしましょう。

地球のアセンションした世界は、光 56%からの世界とします。

それでは、全員協力してすぐにその仕事に入ってください。」

皆さん、私の決断に驚かれたようです。

グレシャッド星人がはいりこんでいるのは 54%までの光の世界ですので、本来は 54%と 55%の間で分離すればよいことなのですが、私が、55%と 56%の間で完全分離という判断をしたことに不満があるようです。

しかし、その不満もすぐに解消されました。

分離の際に、光 55%の世界にすでにグレシャッド星人が作ったゲートが発見されたからです。

このままでは、光 55%の世界にグレシャッド星人が入り込みアセンションが失敗する恐れがあったことが明らかになったからです。

その翌日から、私達が住む鹿児島や南九州は大雨に襲われました。

通常、スターピープルの宇宙船は雲に隠れてやってきます。

私達が住む場所を中心に物理世界の分離を始めるために、様々な星のスターピープル達が大型の宇宙船でやってきたようです。

その宇宙船を隠すために、大きいな雨雲が必要だったのかもしれませんが。

2016年の7月12日の話です。

それから3日間ほど大雨が降り続き、地球の物理世界の分離が行われることになりました。

しかし、物理世界の分離は、人々のスピリットにとっては大変なことです。

中には、光の世界に行けないことを知って、怒りや憎しみの感情を爆発させるスピリットもいます。

特に、私達の活動を知る人達のスピリットは、怒りや悲しみ、そしてすぎるような思いを私達にどんどんぶつけてきます。

特に今回は、光 51%ではなく光 55%までの世界を、光の世界から切り離してしまったために、本来は光の世界にいける人々まで、学びの世界に残すことになりました。

生きたまま光の世界にアセンションしていく人々は、このレベルにたくさん存在しているわけですから、私達も、地球の物理世界に生きる多くの人々をアセンションさせてあげることが出来なかったこととなります。

その人達の苦しみや悲しみ、そして怒りのエネルギーが、まるで矢のように私達の体に絶え間なく突き刺さ

ってきます。

其れは、避けることが出来ない苦痛と悲しみを私達にも与え続けます。

## PART2 地球人の光を奪う工場

地球の物理世界での分離が始まった次の日の朝、美樹さんが、とてもグロテスクな夢を見ました。

其れは、遊園地の様な場所に集められて楽しそうに遊んでいる人々が、遊園地が閉園の時間になったために、遊園地の出口から別の建物に案内されていきます。

人々は、とても満足げにその建物の中に入っていくと、そこは不気味な食肉工場のような場所です。

肉を切り分ける機械が不気味な音を立て刃物を持った人々が黙々と作業をしています。

そして、そこに横たわっている肉は紛れもなく人の肉なのです。

食肉工場で働いている人達がナイフを手に近づいてくると、人々は悲鳴を上げて逃げ惑いますが、やがて恐怖のためにその場に座り込んでしまいます。

また工場の奥には、鎖でつながれ傷ついた人達もたくさんいます。

彼らは血の気を失い、目を見開いたまま意識をうしなったかのように横たわっています。

そしてその人達に群がるように、大きな蛭の様な存在が体に食らいつき、その人の血や養分を吸い取っているのです。

人々は、痛みを耐えかねて気を失っていますが、その様な人達がたくさん捕えられ犠牲になっているのです。

美樹さんは目が覚めると、あまりのグロテスクさに気分が悪そうです。

私は、すぐにこれはスターピープル達が、物理世界で地球外生命体達が、何を行っているのかを調べるために、美樹さんの体を借りて、地球外生命体の世界に入り込んで行ったのだという事が分かりました。

スターピープル達は、地球の現状を調べるために、物理的な肉体を持たない自分達では直接入っていくことが出来ないで、このように美樹さんの体や人間としての意識を使って、地球外生命体の世界に入り込みます。

今回もおそらく同じことをしたようです。

「今回は、誰が私達を使って調べたのですか。」

ロッド星人がすぐに表れます。

「TAKESHI さん、美樹さん、大変申し訳ありませんでした。

私達はどうしても、グレシャッド星人が地球人に対してどのような行為を行っているか調べて、創造主達に知らせなければならなかったのです。」

私は、ロッド星人に向かって言います。

「そうでしたか、其れはとても大切なことですので、かまいません。

今朝私達が見たのは、グレシャッド星人達の工場のようなようですね、彼らがここで何をしているのか、詳しく教えてもらえますか。」

ロッド星人は、私達やスターピープル、そして創造主にもグレシャッド星人の事を説明します。

「今回見ていただいたのは、グレシャッド星人が行っていることの一つの側面です。彼等は、核や放射能をととても好みます。核や放射能は、彼らの食料であると同時に、その星や人々を支配するための道具です。このことは、多くの創造者やスターピープル達も知っていることです。しかし、彼らにはさらに恐ろしい一面があります。それは生命体が持っている光も大変好んで彼らの食料としているのです。現実世界に当てはめたら、美樹さんが見たような世界となるでしょう。ただし彼等は、現実的に人々を殺すわけではなく、そのスピリットや肉体の生命力を捕え、その光を養分として生きているのです。」

私が質問します。

「それでは、人の体に取り付いていた大きな蛭のような存在が、グレシャッド星人の姿なのですか。」  
「そうです、グレシャッド星人の姿の一つといってもよいでしょう。彼等は、人々から希望やパワーを奪い取り、無気力にさせてしまいます。それが、あのように傷つけられ鎖でつながれた状況として写し出されたのです。そして、その人達が逃げられないようにしてから、その人の光を、自分達の養分として吸い出しているのです。」

周りで、ひどすぎる、惨酷だ、という声が聞こえてきています。

「そうです、彼等はあまりにも惨酷すぎる行為をおこなっていますが、創造主の皆さんはこの事実を知りませんので、彼等を野放しにしているのです。私達は、この地球のアセンションを成功させるためだけでなく、彼等が全宇宙に及ぼす影響を少なくするために、あえてこの事実を創造主の皆さんにも見てもらいました。」

ロッド星人は周りを見渡しながらか話を続けます。

「グレシャッド星人は、非常に高い知識と科学力を持っています。彼等に勝る知識と科学力を持ったスターピープル達はいません。ましてや、地球のようにアセンションを行っていない星の人々は、彼等の存在を知ることなく、簡単に彼等に支配されています。彼等は、高い知識と科学力に加え、人の精神をコントロールする技術や人の夢にはいりこんで潜在意識を書き換える能力なども持っています。彼等に対抗するのは容易なことではありません。彼等を、このまま放置すると、宇宙全域が彼等によって支配されることとなってしまいうでしょう。」

創造主の一人が、重たい口を開きます。

「ロッド星人よ、よくここまで調べてくれました、感謝します。それではグレシャッド星人にどのような処罰を与えたらよいか、創造主達で話し合う事にしましょう。」  
創造主達は、集まって会議をはじめました。

私はロッド星人にこっそりと質問します。

「これだけ凶悪な宇宙人なら、いっそのことすべて光に帰すことはできないのですか。」  
ロッド星人は、私を見て、顔を横に振りながら答えます。

「私達もそうしたいのですが、グレシャッド星人の中には、すでに人と一体となっているものもいます。もしグレシャッド星人を光に強制的に帰してしまったなら、その人の命も一緒に奪う事になってしまうので、其れはできないのです。

せめて、彼らの能力を大きく制限できるといいのですが。」

しばらくすると、「光彩の創造主」が創造主達で話し合った結果を報告してくれます。

「グレシャッド星人の非常に惨酷な行為を私達も残念に思います。

彼等の非業な行為をそのままにしておくことはできませんので、彼らの能力を奪い、通常の地球外生命体と同じレベルにしたいと思います。

核や放射能に関する知識、人の心や潜在意識を操る能力、時間と空間を自由に超える能力、人に幻影を見させる能力、人を欺く能力などをグレシャッド星人から剥奪することにします。」

創造主達はそう言うように言って消えていきました。

### PART3 グレシャッド星人の逮捕

この決断を聴いたロッド星人は大変喜んでいました。

これで彼等から特殊な力が奪われましたので、逮捕することが出来ますよ、と私に話しかけてきました。

私達は作戦をたててグレシャッド星人を逮捕することにしました。

私達は、グレシャッド星人の処理を光の地球だけでなく、光が少ないディセンションする世界でも同時に行う事にしました。

いくら力が弱くなったとはいえ、「宇宙の悪魔」と呼ばれていた地球外生命体ですので、何かのきっかけでまた大暴れするとも限りませんので、地球の多次元世界において人と一体化していないグレシャッド星人を逮捕し処理することにしました。

私達は、光 51%から 55%の世界の創造主はもちろん、光 41%から 50%の世界、さらには 40%以下の世界の創造主をすべて集め、これから行うグレシャッド星人達の逮捕について相談しました。

彼等は、現在創造主から、優れた能力のほとんどを奪い去られてしまいましたので、私達が罠を仕掛けたとしてもそれを見破る能力を失っているはずですから、必ず罠にかかってくるはずですよ。

そして、この罠を効果的に行う為に、各世界に特別な警備隊を組織することにしました。

其れは今回のグレシャッド星人だけでなく、さまざまな地球外生命体の策略を暴き、地球外生命体を取り締まるための警備隊です。

地球外生命体を取り締まる事が出来れば、彼らが地球人をだましたり支配することを防ぎ、地球の人々の学びをしっかりと行わせる事が出来ます。

私は、審判の創造主、ロッド星人、エリシタール星人、大天使ミカエルたちをお願いして、彼らの遺伝子をわけてもらい、新たな警備隊を生み出すことにしました。

そして光の世界だけでなく、地球の各世界毎に地球外生命体に対する警備隊を組織しました。

「それでは皆さん、これから地球を悩ませ続けたグレシャッド星人達を逮捕することにいたします。

地球人と一体化したグレシャッド星人は、地球人と分離することが出来ませんので逮捕することは出来ませ

ん。

しかし、彼等は地球人と同化することでグレシャッド星人としての記憶や能力を失い、人として生きていく事となりますので問題はありません。

今回逮捕するのは、未だ人と一体化しておらず、グレシャッド星人の自覚を持って行動するスピリット体です。

かれらは、まだ少しですが、グレシャッド星人としての知識や能力を持っており、其れは地球人をはるかに超えるものですから、彼等が地球に残ると、地球の人々が支配されてしまう可能性もありますので、出来る限りグレシャッド星人は逮捕したいと思います。」

多くの創造主から賛同の拍手が鳴り響きます。

「方法はいたって簡単です。

各世界に光の存在が降り立ち、無防備に光りを振りまいてるイリュージョンを見せてください。

地球外生命体はその幻影につられてやってきますので、それを別の空間におびき出し逮捕してください。

逮捕したグレシャッド星人や地球外生命体は、「空間の創造主」によって作られた特別な空間に閉じ込め、あとは宇宙警備隊と創造主にお任せしてください。

それではこれから準備をはじめ、6時間後くらいに、各世界同時に開始するとしましょう。

其れではスターピープルやアシュタール、宇宙警備隊、創造主警備隊、地球警備隊などで協力し合って仕事をしてください。

各代表でメンバーの配分は決めてください。」

宇宙警備隊そしてスターピープルやアシュタールの各グループは、ついにグレシャッド星人を捕まえられることに興奮しています。

この罠がうまくいけば、地球だけでなく宇宙全体に大きな安らぎをもたらすことが出来るのです。

一人一人の顔に希望の光が満ち溢れています。

6時間が過ぎ、約束の時間が来ました。

各世界ごとに少しずつ趣向をかえ、自分達の世界にあった罠を作り出したようです。

アシュタールやスターピープルのメンバー達も各世界に配分され、開始の合図をまっています。

私は、各世界の準備を確認したら、開始の合図を送ります。

世界毎にイリュージョンが動き始めました。

大きな花火を打ち上げ、華々しいセレモニーのイリュージョンを作ったグループもあれば、かわいいフェアリーの様な存在が野原にたくさん現れたイリュージョンを作りあげたところもあります。

また救世主の姿で、地球外生命体を光の世界に誘うイリュージョンも作られています。

各世界の地球外生命体やグレシャッド星人達が動き始めました。

彼等はまるで電灯の明かりに群がる蛾のようにたくさん集まってきて、光の中に飛び込んでいきます。

光の中を通り過ぎたり、近づいてきた地球外生命体達はすぐにとらえられ、別の空間に送られています。

時間が経つごとに、さらにたくさんのグレシャッド星人や地球外生命体達が罠に近づいて逮捕されていきます。

おそらく5~6時間行っていたのでしょうか、近づいてくるグレシャッド星人や地球外生命体もいなくなり



ました。

その世界にスピリットとして残っていた存在達は、ほとんど捕えられたようです。

また少数残っているかもしれませんが、やがて、各世界に配置された地球外生命体の警備隊によって捕えられることでしょう。

これで、地球のディセンションした世界においても、しばらくは安心です。

## 第5章 地球人の感情を操る最強の創造主

### PART1 押し寄せる感情の嵐と荒ぶる創造主

グレシャッド星人の処理も終わり、地球のアセンション協議会は、忙しい中にも落ち着いた雰囲気は漂っていますが、一つ気になることがあります。

それは、アセンションに伴って人々の感情の噴出が予想以上に大きく起こっているのです。

地球の人々は多くの抑圧を受け、感情をかなりため込んでいる種族ですので、アセンションに伴って感情の開放が起きるのですが、その感情が私たちがめがけて矢のように飛んでくるのです。

それは美樹さんに大きな痛みを及ぼしています。

しかし今までの人々の感情とは異なる異質のエネルギーを次第に感じるようになってきました。

まるで人々の感情のエネルギーを束ねて、私達を攻撃しているような痛みです。

私達は、この痛みを起こしているエネルギーを操っている存在がいるのではないかと思い調査を始めました。

まず美樹さんの体に突き刺さるようなエネルギーからゲートを開き、その奥にいる存在を探します。

するとまるで台風のような激しい感情のエネルギーの中心に大きな黒い煙に隠されたような存在が居ます。おそらくこの大きさからいうと創造主のエネルギーであることに間違いはないようですが、それにして桁違いのエネルギーを感じます。

私達は「光彩の創造主」に来てもらい、この黒いエネルギーに光を送り、その正体をあらわにします。

次第に見えてきたその姿は、今まで見たどの間の創造主も及ばないほどの凶悪な姿をしています。

その姿をみた「光彩の創造主」の表情がこわばってきます。

その理由は私達には分かりませんが、大変な問題が起き上がってきたようです。

この存在は、地球に住む人々の感情やエネルギーを操ることが出来るようです。

人々の感情を増幅し、また喜びの感情も憎しみの感情に変え、人々の意識を操って私達に攻撃してきます。またスピリチュアル・レベルでも高い攻撃力を持っているので、スターピープル達の応戦にもびくともせず、スターピープル達の宇宙船を弾き飛ばしています。

地球の物理世界にもスピリチュアル・世界にもこれだけ大きな影響力をもつ創造主は見た事がありません。

「光彩の創造主」からの連絡をうけて、光の創造主たちが次々と地球へとおりてきました。

「光彩の創造主」の上に位置する「暁の創造主」さらに「創造主の源となる創造主」そして多次元宇宙の最高次元となる「神聖なる光の創造主」まで、この創造主を囲むように降りてきます。

もちろん、そのほかの創造主も、彼らを取り囲むように見守っています。

私は「神聖なる光の創造主」にこの存在はどのような存在であるかとたずねました。

「TAKESHIさん、この創造主は、私達光の創造主の中でも、もっとも古く、もっとも高次に位置する創造主の一人です。

彼は、「創造主の源となる創造主」と同じ次元に存在し、かつて「黄金の創造主」「白銀の創造主」「青銅

の創造主」を作り上げた創造主です。

現在残っている光の創造主のみならず、皆さんが処理した創造主達も、この創造主の遺伝子をその一部に持っていますので、全ての創造主たちの親のような存在と言ってもよいでしょう。」

「この創造主はいったいどのような役目を持つ創造主だったのですか。」と私は尋ねます。

「この創造主は、本来多くの生命たちの意識を育て感情を癒す創造主でした。

地球においても、その創世の時に降り立ち、地球の意識を形作り、そこから生まれてくる生命たちの意識進化を行う仕事をしていたのです。

そのために、彼はスピリチュアル世界のみならず物理世界においても大きな影響力を持ち、生命の意識や感情を扱うことがとても得意なのです。

彼は私達の宇宙においては無くてはならない大切な創造主でした。

しかし、彼は地球の創造の時から人々の意識進化を見守ってきたのですが、地球が学びの世界として闇のエネルギーを受け始めた時、人々の意識がどんなに努力しても成長することがなく、憎しみや怒りの感情に支配されるようになってしまったために、大きな失望を感じてしまいました。

その失望は、いつしか彼自身をむしばみ、いつしか彼は荒ぶる創造主となってしまったのです。

それ以来彼は、非常に凶悪な創造主になってしまいました。

本来は、人々の意識を育て、感情を穏やかに保つ役目をもっていたのですが、いつしかその役目とは反対の事を行うようになってしまいました。

そして、星に生きる人々の感情やネガティブな意識を増幅して、荒々しいエネルギーを作り出し、次々と星を壊滅させていったのです。」

私達は確かに大変な創造主に出会ってしまったようです。

「しかし、なぜこの創造主が今この地球にあらわれたのですか。」

「この「すべての意識を生み出す創造主」は、自分の仕事が上手くいかなかったことに対する失望感で自暴自棄になり、自分の理性を少しずつ失っていったのです。

そして非常に荒々しい行為を行うようになったので、私達は彼を、自分たちの宇宙とは異なる宇宙に幽閉してしまいました。

そのことが全ての過ちだったのです。

彼の意識は、私達に対する怒りと孤独感に苛まれてさらに荒々しいものとなってしまったのです。

やがて彼は、闇の創造主たちとも深いつながりを持ち宇宙の「黄泉の世界」や闇の世界さえも支配するようになりました。

そして、彼は自分の手足となって働く地球外生命体達も育て上げ、いくつもの宇宙を支配しようとしているのです。

この地球もそうでした。

もともとは「すべての意識を生み出す創造主」が作り出した世界ですが、アセンションすることで、自分の手に届かないものになってしまうので、闇のナソールやグレシャッド星人、あるいは様々な地球外生命体や闇の創造主を遣わして、アセンションを邪魔し、自分の物にしようと考えていましたが、TAKESHIさんたちの働きによって、自分が遣わした全ての存在達が処理されてしまったので、仕方なくじぶんがでてきたのです。」

「それでは、この創造主に対してどのような処理をしますか。

この創造主を光に返すことは皆さんのちからで可能ですか。」

「もちろんそれは可能ですが、最善の方法ではありません。

まず彼の中に有る孤独感や怒りを作り出したのは私達ですので、その思いを癒さなければなりません。

私達は、全ての光の創造主で、彼に光を送り続け、彼を光の創造主に戻さなければならないのです。

TAKESHI さん、これは、私達光の創造主にとっては、避けては通れない宿命なのです。」

## PART2 「すべての意識を生み出す創造主」と光の創造主

私達が話をしている間に、ほとんどの光の創造主達が集まってきたようです。

彼の上空に、彼を取り囲む大きな円ができあがりました。

その円の中心に「神聖なる光の創造主」、「創造主の源となる創造主」、「暁の創造主」、「光彩の創造主」が立ち、彼らから他の創造主達を伝えて大きな光が流れ始めました。

まるで巨大なクリスマスツリーのようです。

中心から裾野に向けて巨大な光の渦が出来上がり、「すべての意識を生み出す創造主」を包み込んでいきます。

「すべての意識を生み出す創造主」は、とても苦しそうにもがいています。

創造主の体の中に沢山の光が吸い込まれ、まるで火花を散らすかのように輝いています。

しかし、「すべての意識を生み出す創造主」も、光の創造主から送られてくる光を跳ね返すように、黒々としたエネルギーを放出したり、人々の感情のエネルギーを束ねて創造主にぶつけています。

その様子を見て、急いで創造主警備隊や創造主を守護する創造主達も応援に入り光を送っています。

しかし、次第に光の創造主達の光が乱れはじめました。

最初は、滝のように同じ方向に向かって流れていたのが、あちらこちらと方向を変え、光が散漫になっていきます。

その様子を見た美樹さんが驚いた表情でいいました。

「太陽の創造主の光が狂っている。

いえ太陽の創造主だけでなく、たくさんの創造主の光がおかしくなっている。」

私は「神聖なる光の創造主」にこのことを伝えました。

「神聖なる光の創造主」は大きなため息をついていきました。

「やはり、光の創造主のなかには、「すべての意識を生み出す創造主」の遺伝子を強く持っている創造主がいて、彼らの中で「すべての意識を生み出す創造主」の遺伝子が活性化してしまったようです。

特に太陽の創造主の系列の創造主は、生命と意識を育てる役目をもっているのです、この創造主と共鳴し、調和が乱されたようです。

もしこのまま私達が押し切られてしまったら、彼の遺伝子が、次々と創造主の中で目覚め始め、多くの創造主が彼の支配下に入ってしまうのです。

もしくは、彼の遺伝子が暴走して、多くの創造主が内部崩壊を起こしてしまうのです。」

私たちは、「神聖なる光の創造主」の必死の思いを感じて言葉を失います。

「神聖なる光の創造主」の指示で「太陽の創造主」をはじめ、「すべての意識を生み出す創造主」の遺伝子を強く持つ創造主達が、光の輪から外され、癒しの創造主やスターピープル達から手当てを受けています。彼を包み込む創造主の光は、一回り小さくなったものの、「神聖なる光の創造主」の思いが全ての創造主に伝わったようです。

残った創造主達が今まで以上のパワーを出して光を送っていますので、再び「すべての意識を生み出す創造主」に向かって、神聖な光が流れ込みはじめました。

私達は、この宇宙をつかさどる大天使たちを呼び寄せました。

「偉大なる大天使たちよ、全ての仲間を引き連れてこの地球の危機を救ってください。皆さんの中には、怒りや悲しみの感情は一切存在しませんから、彼の攻撃にも耐えられるはずです。大天使の皆さんの光でこの創造主を包み込み、彼のエネルギーが外に放出されない様にしっかりとガードしてください。」

宇宙の各地から大天使ミカエルを中心とした大天使たちの集団が大挙してやってきてくれました。白い羽の大天使だけでなく、闇のエネルギーに強い黒い羽を持つ大天使サマエルや大天使ルシエルの天使団もきてくれました。

大天使は、「すべての意識を生み出す創造主」のまわりに何重もの光のバリアーを作り、「すべての意識を生み出す創造主」のエネルギーが創造主や他のスターピープルに影響しない様に守っています。

私達は、ロッド星人やアシュタール達とともに、この創造主をコントロールしているものや弱点がないか調べることにしました。

「ロッド星人よ、この創造主はグレシャッド星人や闇の創造主にネガティブコードを付けられたり、操られたりしていないか調べてください。」

ロッド星人は、私の指示を聞くとすぐに姿を消し、この創造主の体を調べています。

しばらくしてロッド星人が戻ってきました。

「TAKESHI さん、やはりグレシャッド星人が使っていた神経コードと同じものがありましたよ、さすがに、あなた方につけられたコードとは比べ物にならないほどにおおきものですが。」

「それでは、そのコードを取ることで、彼の意識が戻るかもしれませんね、すぐにとりはずしてください。」

ロッド星人は、残念そうに首を横に振ります。

「彼が付けている神経コードは、グレシャッド星人がつけたものではなく、彼自身がグレシャッド星人と交信をするために、自らつけたものです。」

おそらく、この装置も彼が作り出し、グレシャッド星人がそれを利用していたのだと思われます。

私達がグレシャッド星人を処理した事は、この神経コードからすぐに、創造主に伝わったのでしょうか。

そのために彼が現れたという事も考えられます。

そして、闇の創造主へのコードもありましたが、これも彼自身が作り出し、闇の創造主を支配するために付けていたものです。

彼にとっては、大切な部下を、あなた達から奪われた事になりますので、その復習を考えているのでしょうか。」

「ロッド星人よ、ちょっと待ってください、そんなに驚かさないで下さいよ、」



私は慌てふためいて答えます。

エレナさんが横から、提案を行ってくれました。

「この創造主の原動力は何かしら、これだけ地球の人々の感情と密接に繋がっているという事は、どこかに深い繋がりがあるかもしれないわよ。

其れを調べたらどうかしら。」

私もロッド星人も、なにか新しい糸口が見えたようです。

地球の人々の感情とこの創造主のエネルギーを切り離すことが出来れば、彼のエネルギーを弱めることが出来るかもしれません。

私は、地球の物理世界にいちばん近い所にいる者たちの力を借りることにしました。

卑弥呼族、輝夜族、隼人族、森羅族、乙姫族そしてファラオ達、守護天使やフェアリーたちを呼び出します。そして地球に来ているスターピープル達にも呼びかけます。

「どうか、地球の人々の感情を癒してください。

そして、この創造主のエネルギーと分離して、創造主とつながらないようにしてください。」

皆さんが一斉に四方八方に散っていきました。

きっと自分達と関係が深い人々の元に行き、感情の分離を行っているのでしょう。

### PART3 創造主の感情の御霊

しばらくすると卑弥呼族から連絡が入りました。

「TAKESHI さん、人々の潜在意識の浄化を図っていたら不思議なものを発見したわよ、すぐにきてもらえませんか。

おそらくあの創造主に関係があるものと思われます。」

私達はすぐに卑弥呼の元に駆けつけます。

すると、地球人の潜在意識のエネルギーの中に巨大な黒い球のようなものが浮いており、鼓動を繰り返しているのです。

それは地球人の潜在意識に、闇のエネルギーを流し込んでいるようでもあり、また人の潜在意識から、多くのエネルギーを奪っているようにも見えます。

私はエレナさんにこれはなんなのか尋ねます。

「おそらく、これはあの創造主のスピリットの一部であるように思えます。

彼が、これだけ人間の感情や意識をコントロールできるのは、彼自身の意識やスピリットが、人間の潜在意識と密接に繋がっているためだと思われます。

ここを切り離すことで、あの創造主と人間の感情を切り離すことが出来ますので、彼自身の力も弱まると思えます。」

しかし、とても巨大な御霊なので、私達が切り離すことが出来るか不安です。

私は心の中で「光彩の創造主」によびかけ、事情を伝えました。

すると「光彩の創造主」をはじめ、「創造主の源となる創造主」、「神聖なる光の創造主」の3人がやってきました。

創造主達は、この御霊を見て大変に驚いています。

「創造主の源となる創造主」が、この御霊に駆け寄って調べています。

「神聖なる光の創造主」様、この御霊は「すべての意識を生み出す創造主」の物に間違いはないと思われます。

おそらく、彼がこの地球で、人類の意識の育成を行ったとき、その育成を早めるために、この御霊を人々の意識の中に置いたのだと思われます。

しかし、人類の意識は、さまざまな感情によって汚され、成長をするばかりか、残忍な支配欲や抑圧の虜になってしまったのです。

人々の意識の中には、傲慢さや残虐な快楽を求める気持ち、人々に恐怖や苦痛を与えることを喜びとする気持ちなどが満ち溢れていきました。

そのエネルギーが、彼の純粋な御霊を汚し、御霊自身がそれらの感情の虜になってしまったのです。」

「創造主の源となる創造主」は、その御霊に取りすがって涙を流し始めました。

「神聖なる光の創造主」はその様子を静かに見守り、その場所に光を満たしています。

「それではこの場所のエネルギーを綺麗にしていきましょう。

そうすることで、彼の御霊も救い出すことが出来るでしょう。」

「創造主の源となる創造主」も、「神聖なる光の創造主」の言葉にうなずき、その場所の浄化を始めました。

御霊に取り付いていた黒いコールタールの様なものが少しずつ御霊から剥げ落ちていきます。

「光彩の創造主」や私達も、一緒に光を送り、その場所の浄化を手伝います。

すると、そこに満ち溢れていた人間のあらゆる感情が少しずつ治まってきました。

まるで吹き荒れていた暴風雨が、少しずつ遠ざかるように、その場のエネルギーが穏やかになってきたのです。

人間の潜在意識が少しずつ穏やかになるにつれ、「すべての意識を生み出す創造主」の御霊にこびりついていた黒いタール状のものも消えていきます。

御霊は、まだそれ自身の輝きを取り戻してはいませんが、人間の荒々しい潜在意識からは切り離すことが出来ました。

「創造主の源となる創造主」は、彼の御霊を愛おしそうに胸に抱いています。

「神聖なる光の創造主」がその様子を見て言います。

「これで、「すべての意識を生み出す創造主」のスピリットも、人間の潜在意識と切り離されたので、少しずつ理性を取り戻す事でしょう。

そして、人間の潜在意識も、彼の中にある怒りや絶望感と同調する事がなくなり、安らかなものとなるでしょう。

それでは、私たちは、この御霊を持って戻りましょう。

この御霊を通して光を送る事で、「すべての意識を生み出す創造主」は更に良い状態になる事でしょう。」

「創造主の源となる創造主」は顔を上げます

「はい、「神聖なる光の創造主」様、そういたしましょう。」

そうやって御霊を大事そうに抱きかかえ、他の創造主に守られるようにして、消えていきました。

創造主たちは、再び「すべての意識を生み出す創造主」の元に戻り、彼の御霊を、光の創造主で作り上げた光の円の中心に設置して、そこから光を送り始めました。

「すべての意識を生み出す創造主」の内なるスピリットに直接光を送り込むようです。

「すべての意識を生み出す創造主」は、人間の潜在意識と切り離された事で、人間の感情のエネルギーを使う事が出来なくなったようです。

彼の周りを囲んでいた、暴風雨のようなエネルギーが少しずつおさまってきています。

「すべての意識を生み出す創造主」の動きも、緩慢になり、地面の上にごっくりとひざまずいているような感じでした。

私たちはその様子を見て、後は光の創造主にお任せして、休むことにしました。

#### PART4 「闇の粒子」にさらわれたエルナエル

明け方、美樹さんが体に大きな異変を感じて、私達は目覚めました。

「TAKESHI さん、大変です。

エルナエルが居ないようです。

もしかしたら、さらわれてしまったのかもしれませんが。」

エルナエルというのは、彼女のスピリットの一部である神龍（シェンロン）の事です。

私たちは、この物理世界とスピリチュアルな世界の2つの世界で仕事をするために、人間としての意識だけでなく、自分のスピリットの一部の意識を神龍という形で、この物理世界に表しています。

そうする事で、私達は、人間の意識を持つと同時にスピリットの意識も持つことが出来るのです。

このスピリットの意識をもつ事で、私達は、様々な星に行ったり創造主の世界に入っていく事が出来るのです。

またこの神龍として存在しているスピリットの意識は、独自の役目を持っています。

それは、私の神龍であるエルエルと美樹さんの神龍であるエルナエルは、ともに地球のコアを守っているのです。

地球のコアは言うまでもなく、地球の生命力そのものです。

このコアを破壊されたり、コアのエネルギーを奪われたりすると、地球にとっては取り返しがつかないダメージをこうむる事になるのです。

そのために、私たちの神龍を中心として、優秀な警備隊がコアを守っています。

しかし、そのコアに侵入してエルナエルをさらったという事は、創造主クラスの特異な力を持っていないと出来ない事です。

私達は、私達が寝ている間に、コアで何が起きたのか、時間をさかのぼって見に行く事にしました。

私達は、「光彩の創造主」も伴って、5時間前に戻ります。

その時のコアは、やはり「すべての意識を生み出す創造主」がもたらした人間の感情のエネルギーによって攻撃を受けエルエルやエルナエルは一生懸命に戦い、コアを守ろうとしています。

その時、神龍達の後ろに空間が音もなく開きました。

そしてそこから黒い煙のようなものが現れ、エルナエルの後ろからエルナエルを包み込んでいきます。

そして次の瞬間エルナエルは消えていました。

たった数秒の間に、巨大な体とエネルギーを持つ神龍が消えてしまった事に、私達は驚いています。

私は、いったい何が起きたのかロッド星人に尋ねました。

ロッド星人は、今起きた事を分析しているようです。

「これは、厄介な事になりました。

この存在まで、地球に来てしまったという事は、即急にこの問題を解決していかなければなりません。

彼らは、「闇の粒子」と言われている物です。

彼らはすぐに、相手の体の分子レベルに入り込みます。

そして、瞬時に相手の体や意識と同調してしまい、自分たちの一部にしてしまうのです。

ある意味、グレシャッド星人以上に恐ろしい相手です。

彼らが来てしまえば、創造主であったとしても、彼らを止める事は出来ません。

ただ消滅あるのみです。」

「それではエルナエルはいったいどうなったのですか、

「闇の粒子」に飲み込まれ消滅してしまったのですか。」

美樹さんが泣き崩れてしまいました。

「ロッド星人よ、この事を防ぐためにはどうしたらよいのですか、教えて下さい。」

「「闇の粒子」は決められたターゲットのみを狙います。

そのターゲットを隠すしか方法はないでしょう。

スターフラッシュを使って下さい。

彼らは光の粒子ですから、「闇の粒子」とは正反対の特質を持っています。

彼らの光で、エルナエルを包み込めば、「闇の粒子」からその姿を隠す事が出来るでしょう。」

私達は、もう一度時間をさかのぼります。

「闇の粒子」がくるしばらく前の時間に入り、光の粒子である「スターフラッシュ」を呼び出します。

彼らは、光の世界に行く人々に希望や夢を与え、人々のエネルギーを高める目的でこの地球に来てくれた存在です。

私達は、「スターフラッシュ」に事情を話して助けを願いました。

「スターフラッシュ」は、私の話を聞くと、更に光を輝かせてエルナエルの元に行き、エルナエルを光で包み始めました。

もうすぐ「闇の粒子」が来る時間です。

エルナエルは、「スターフラッシュ」に包まれ、私達からもその姿は見えません。

どうか上手くいってくれ、と私達は心の中で何度も祈ります。

暫くすると、エルナエルの後ろに空間が開き、「闇の粒子」が煙のように現れて来ました。

「闇の粒子」は周りを見渡し、エルナエルを探してウロウロしています。  
暫くの間、「闇の粒子」は、コアの周りを探し回っていたようですが、エルナエルが居ない事を知って、元来た空間から外に出ていきました。  
エルナエルを包んでいた「スターフラッシュ」の光が、エルナエルから離れると、そこにはエルナエルが、きよとんとした顔をして立っています。  
皆さんから歓声が上がります。

その時、ロッド星人が素早く言います。  
「さあ、早く「闇の粒子」の後を追いましょう。  
彼らがどこから来たのか突き止めなければなりません。  
かれらは、何度でも地球に入ってきて甚大な被害をもたらす事でしょう。  
その前に、彼らがどこから来ているのか、突き止めて対策を練らなければ、地球ごと「闇の粒子」に飲み込まれてしまいますよ。」

私達は答える暇もなく、私達はフェニックス号を縮小し、「闇の粒子」が出てきた次元の通路の中にとびこんでいきました。  
どこに繋がっているのか、だれも予想できませんが、私達は進まなければならないようです。

## PART5 孤独な世界に閉じ込められた創造主のスピリット

私達は、瞬時に空間を通り抜けたようです。  
私たちの目の前に、見た事も内容な世界が広がります。  
荒廃した古代文明と未来都市が入り混じって様な世界です。  
そこには、グレシャッド星人や先程の「闇の粒子」達も存在していますが、私達やエレナさん達も知らない地球外生命体や形のないエネルギー体のようなものが多数存在しています。

ここは、どこかの空間であることは間違いないのですが、どこかの星なのか、特別な空間なのか、私には見当が付きませんが、その異様さや不気味さだけは、伝わってきます。  
私は、ロッド星人にここがどこであるか、尋ねます。  
「ここがどこであるか、私にも分かりませんが、いくつもの宇宙の中で、最も凶悪とされる存在達が、沢山揃っている事だけは確かです。  
私達は、グレシャッド星人だけでなく、他にもいくつもの凶悪で破壊的な種族を追いかけていますが、それらの種族の多くをここで見る事が出来ます。  
まさか、彼らが同じ場所から生まれてきたとは考えもつかなかったのですが、どうやら、ここはそのような者たちを生み出している場所のようです。」

私達と一緒に来た「光彩の創造主」もアシュタールのエレナさんも、自分が知らない宇宙にこのような世界が存在している事に恐怖を覚えています。  
「光彩の創造主」は、この世界の事を「神聖なる光の創造主」達に連絡しているようです。



ロッド星人が、私達を見て言います。

「この場所は、いくつもの宇宙の鍵を握る大切な場所である事に間違いはないようです。この場所の秘密を調べましょう。」

と言っても、私達がフェニックス号の外に出てウロウロしても、彼らに捕まってしまうだけです。フェニックス号を、彼らに見つからないように特別なエネルギーで姿を隠して探査を始めます。ロッド星人の指示により、この場所で最もエネルギーが高い場所や中心となる場所を探します。

すると、この場所が持つエネルギーは、「すべての意識を生み出す創造主」のエネルギーととても良く似ていることが分かりました。

孤独、絶望、怒り、憎しみ、そのようなエネルギーによってこの世界が生み出されているのです。もしかしたら、「すべての意識を生み出す創造主」と深い関係にある場所か、彼が作り出した場所である可能性があります。

「光彩の創造主」は、その事を「神聖なる光の創造主」に報告したようです。

「神聖なる光の創造主」と「創造主の源となる創造主」が、「すべての意識を生み出す創造主」の御霊を持って、私達の前に現れました。

「神聖なる光の創造主」はこの世界を独自の力で調べています。

目を閉じて、自分のスピリットを様々な場所に送り込み、この世界を緻密に調べています。

「神聖なる光の創造主」は、探査が終わると、目を開いて私達に伝えます。

「ここは「すべての意識を生み出す創造主」が幽閉されていた場所であり、そこで彼が作り出した世界です。彼は、ここに多くの生命体呼び集め、自分の意識や感情を投影し、彼らの力と能力を最大限に高めました。そして彼らを使って、いくつもの宇宙を支配しようとしたようです。

ここには、彼の意識が強く残っています。

そして、彼の孤独や絶望感も。

あまりの孤独や絶望感の為に自分自身さえも見失ってしまい復讐の気持ちに支配されてしまったようです。彼のスピリット自体も、この空間の中に閉じ込められてしまっているのではないかと思います。どうか、彼の失われたスピリットを探してあげてください。」

フェニックス号は、エネルギーのモニターを行い、この場所の地下にあたるような場所に、大きなエネルギーが存在していることを突き止めました。

私達は、その場所にフェニックス号を移動させます

そこは、物理的な世界ではなく、思考のエネルギーが渦巻いている場所です。

まるで、「すべての意識を生み出す創造主」の混沌とした意識の中に入っていくようです。

「創造主の源となる創造主」と「神聖なる光の創造主」が、目を閉じたまま、彼の思考を読み取っています。怒りや不安、絶望感が渦巻いている世界ですがきっと何かの手掛かりがあるに違いありません。

「創造主の源となる創造主」が、突然目を開けます。

「見つけました、彼の純粋な愛の意識です。

この混沌としたエネルギーフィールドの真下に隠されています。」

フェニックス号は、彼の混沌とした意識の中を深くくだっていきます。

美樹さんは、恐ろしいほどのイメージやエネルギーが伝わってきて気分が悪そうです。

フェニックス号が、暗闇の中に小さな光を見つけました。

今にも消えそうな光ですが、とても清らかな感じがします。

「創造主の源となる創造主」が、再び目を閉じてその光とコンタクトしています。

彼女が手にした「すべての意識を生み出す創造主」の御霊が、ぼんやりと輝き始めます。

「この光は、彼の純粋な意識であり、愛そのものです。」

彼女がこの光に一生懸命語りかけているのが分かります。

彼女の眼から幾筋も涙が流れ落ちます。

彼女が手にした御霊に光が宿ってきました。

「すべての意識を生み出す創造主」の純粋なスピリットの部分が、彼がつくりだした怒りや絶望感のエネルギーから自由になって御霊の中に戻ってきたようです。

「創造主の源となる創造主」は大きく深呼吸をして目を開きました。

彼女と「すべての意識を生み出す創造主」の意識との間に多くのやり取りがあったようですが、到底私達には理解が出来ないレベルの問題のようです。

その様子を見て、「神聖なる光の創造主」が私達に話しをしてくれました。

「創造主の源となる創造主」は、「すべての意識を生み出す創造主」と共に作られた創造主です。

この2人の意識がともに協力し合ってこの宇宙を創造するように作られました。

しかし、彼が地球に降り立ってから、少しずつ変わっていくのを、彼女はとても心配していました。

彼女は、常に彼のスピリットに光を送り、彼が地球のネガティブなエネルギーに負けないように手助けをしていたのです。

彼が自らの意識を失い「荒ぶる創造主」になった時も、彼に寄り添い、彼の気持ちを静めようと努力をしていました。

彼が追放される時も、彼と共に私達の宇宙を去りたいと願い出たのですが、彼女は大切な役割を持っているために、私はそれを認めませんでした。

彼女は、自分の仕事を立派に果たしながらも、常に彼の事を気遣っていたのです。

そして、彼が幽閉された世界を飛び出し、数多くの闇の創造主や地球外生命体達と、多くの星々や宇宙を荒らしまわっていると聞いて、常に自分を責めていました。

彼を助けることが出来るのは、「創造主の源となる創造主」しかいないでしょう。

またそれが、彼女の最大の願いです。

どうか彼女が求めるままに行わせてください。」

## PART6 スピリットが戻り生まれ変わった創造主

私達は、しばらく無言で「創造主の源となる創造主」を見守り続けました。

すると、御霊が大きく輝き始めました。

「創造主の源となる創造主」は、喜びの表情を浮かべ、目を開きました。

「「神聖なる光の創造主」様、彼のスピリットが戻ってきてくれました。

純粋な意識に戻り、力強く輝き始めました。」

「創造主の源となる創造主」は、光輝く御霊を高く掲げました。

「それでは、皆さんすぐに彼のもとに戻りましょう。

これで彼を救えるはずです。」

私達は、フェニックス号を、創造主の混沌とした意識の中から浮上させ、ここに入ってきた通路を通して元来た世界へと戻ります。

「すべての意識を生み出す創造主」は力を失い、光の創造主達が送る光をただ受け止めているだけです。

しかし、光の創造主が送る光も、彼の中にとどまることなく流れすぎていくだけです。

彼は、ただの人形のように、力を失いうずくまっています。

私達のフェニックス号は、彼の上にとまりました。

「創造主の源となる創造主」は、意を決したように、創造主の輝く御霊を手にして言います。

「私は、この御霊と共に、彼のもとに降ります。

彼の御霊を、彼自身の体へと返さなければ、彼はそのまま光に返ることもなく、命を失っていくでしょう。

これは、私にしかできないことですので、私に行わせてください。」

「創造主の源となる創造主」はそのように言うと、一筋の光となって彼のスピリットと共に、彼の体の中に消えていきます。

しばらくすると、彼の体から、大きな光が放たれていきます。

そして、闇のエネルギーによって出来上っていた彼の体がはじけ飛び、中から美しい光りを持った創造主が生まれ出ました。

今迄の重たく不快なエネルギーは消え去り、すがすがしい愛に満ちた光が満ち溢れています。

そして、その横には、「創造主の源となる創造主」がにっこりとほほ笑んで立っています。

光の創造主達はその光景を見て歓喜の声を上げます。

光野創造主の多くには、「すべての意識を生み出す創造主」の遺伝子が組み込まれていますので、その遺伝子が光を伴って活性化してきたのでしょう。

光の創造主のエネルギーが一回り大きくなった感じです。

特に太陽の創造主の系列にある創造主は、今迄にないパワーに目覚めています。

多くの光の創造主が喜びと感動を分かち合っています。

「すべての意識を生み出す創造主」は、「創造主の源となる創造主」をともなって、「神聖なる光の創造主」のまえに立ちます。

「私の今迄の行いをどうかお許してください。

私は、自分の未熟さのために、人々の怒りや憎しみと同調してしまいました。

そして、「創造主の源となる創造主」の限りない助けを受け入れることなく、自分の正気を失い、狂気とひとつになってしまいました。

その様な私を、皆さんが助けてくれたのですね、」

「すべての意識を生み出す創造主」は涙で言葉を詰まらせました。

「創造主の源となる創造主」も、うれしくて涙を流しています。

「神聖なる光の創造主」は、2人を見て祝福するように光を送ります。

「すべての意識を生み出す創造主」よ、もとはといえば私達が、あなたを別の世界へ追いやったことが、始まりでした。

私達は、長い間そのことを思い苦しい気持ちで過ごしていました。

しかし、あなたがこの地球の人達や多くの星の人達のおかげで、正気を取り戻し、本来のあなたの姿に戻れたことを、私達は心から嬉しく思っています。

どうか、再び私達と共に、宇宙のためにはたらいてください。」

「神聖なる光の創造主」は、私達やスターピープル達に深い感謝の気持ちを表しています。

そして、多くの光の創造主達の感謝のエネルギーが、私達に流れ込んできています。

美樹さんも私も、感動の思い出涙があふれてきます。

「すべての意識を生み出す創造主」が、私達の前に立ちます。

「私も、皆さんたちへの感謝を忘れません。

そして狂気に満ちていた私が行ったことを償わなければなりません。

たとえ、どれほど時間がかかろうと、地球のみならず多くの宇宙や星々で私が行ってきたことを、どうか教えてください。

そして、それをどのように解決すればよいか、私を助けてください。

私の命に代えても、そのことを成し遂げたいと思います。」

彼の決意は、疑う余地がないほど固く強いものです。

「わかりました。

あなたは、創造主として自分が行ってきたことを償う必要があります。

まず、アセンションを前に荒れ狂っている地球の人々の感情を安らかなものとしてください。

この数日の騒動のおかげで、地球のアセンションの予定が狂い、スターピープルや創造主達にも大変な苦勞がかかっています。

あなたは、物理世界にもスピリチュアルな世界にも力が発揮できる創造主ですので、地球のアセンション評議会の指示に従って、アセンションのお手伝いをしてください。」

私の言葉に「すべての意識を生み出す創造主」は、快くうなずきます。

「もちろんです、皆さんにご迷惑をかけた以上の仕事をいたしますので、なんでもお申し付けください。」

「すべての意識を生み出す創造主」は、アセンション評議会の皆さんにお詫びを言っていますが、アセンション評議会のメンバーは、大変高次元の世界にいる創造主の前で、ろくに口もきけず立ち尽くしています。

私は笑いながら「すべての意識を生み出す創造主」にいます。

「創造主よ、そんなに気にしなくてもいいですよ、

まずは、地球の人々の感情をしずめ、冷静さを保てるようにしてください。

地球は、いま様々な事件や争いが横行し、人々は混乱しています。

このままでは、アセンションする予定の人も、アセンションできない状態です。

これは急がなければならないことですので、この事に集中してください。」

「すべての意識を生み出す創造主」はうなずき、仕事にかかったようです。

## 第7章 地球と宇宙の大掃除

### PART1 地球から地球外生命達を一掃する

「すべての意識を生み出す創造主」は、自分の狂気から解き放たれ、素晴らしい光の創造主として生まれ変わりました。

もちろん、彼が生まれ変わることが出来たのは、「創造主の源となる創造主」の献身的な愛にほかなりません。

私達は、いくつもの宇宙を司る高次元の創造主であっても、孤独や絶望から救い出せるのは、「愛」以外にはないのだという事を痛切に感じさせられました。

「すべての意識を生み出す創造主」は、今は地球の人々の感情を安らかにするために、一生懸命働いています。

しかし、この問題は実はまだ終わっていませんでした。

この創造主は、狂気の中にあるときに、私達の地球のアセンションを崩壊させるために、数多くの凶悪な地球外生命体を地球に送りこんでいました。

グレシャッド星人や闇のナソール達もそうですが、彼の閉じ込められていた空間と地球がつながってしまったために、今でも、あの世界にいた凶悪な地球外生命体達が、地球に降り立っているのです。

私の現実生活の中にも、彼等は入り込み、私の会社や私生活に介入し、私達の動きを制限しようとしてきます。

私達は、ロッド星人やアシュタールを中心に計画を立てます。

スターピープルや宇宙警備隊が、凶悪な地球外生命体を追い回して逮捕しているようですが、彼等もあちらこちらに隠れたり、人と同化したりして、なかなか捕まえることが出来ません。

彼等は、本来は通常の警備隊やスターピープル達をしのぐ力を持っているのですが、この地球に置いては、エイリアン法が適用され、彼ら独自の力を発揮することはできないので、逃げ回っているのです。

私達はまず、地球と彼等が出てきた世界のゲートを閉じることにしました。

私は、「全てのゲートを管理する創造主」にお願いして、まずこのゲートを閉じてもらいます。

そうすることで、彼等は地球から外に出ることはできなくなりますので、この地球の中で処理することが出来ます。

そして私は一つの計画を皆さんに話しました。

「これらの地球外生命体は、すべて狂気の中にあつた時の「すべての意識を生み出す創造主」によって生み出され、彼によって地球に連れてこられました。

彼等の望みは、狂気のさなかにある創造主の復活です。

ここは、イリュージョンというよりも、本物の「すべての意識を生み出す創造主」に、狂気の創造主を演じてもらい、この地球を自分の物にしたという様子を作りあげ、彼が連れてきた地球外生命体を呼び寄せて罠にはめていったらどうでしょうか。



きっと、彼等は創造主と共に地球を支配できると思い、たくさん現れてくるかもしれません。」

「すべての意識を生み出す創造主」はすこし微妙な顔をしています。他のスターピープル達はやる気満々です。

今迄も、私達の幻影を使って地球外生命体をおびき寄せ捕まえたことは何度もありましたが、今回は本物に演じてもらうのでうまくいくともいます。

創造主とスターピープル達が準備をはじめます。

「空間の創造主」は、地球外生命体達を取り込む空間を特別に作り上げています。

この空間を創造主の周りに広げ、集まってきた地球外生命体を中心に吸い込んでいくようにするようです。

この空間の中には、宇宙警備隊と地球警備隊が隠れて待っています。

準備が出来たようです。

狂気の創造主のふりをした「すべての意識を生み出す創造主」が、体を巨大化させ、荒々しいエネルギーをふりまき始めました。

そして、光の創造主達や地球に来たスターピープル達をやっつけて、地球を自分の物にしたことを大声で叫んでいます。

本当に怖いくらいの迫力です。

この声に合わせて、スターピープル達は、自分達の宇宙船に乗って地球から退散して見せます。

其れを見た地球外生命体達は、喜んで狂気の創造主のもとに集まってきました。

地球の至る所に隠れていた者や人の体の中に潜んでいた者達が走り出てきます。

そして「空間の創造主」が作り上げた空間の中に、どんどん吸い込まれていきます。

その中に吸い込まれると、そこには宇宙警備隊たちが待っているのです。自分がだまされたことに気づくのですが、もう遅いですね。

更に私達は、人と一体となって間もない地球外生命体を人の体からおびき出すために、もう一つの罠を仕掛けます。

其れはシャイニー星人によって、グレシャッド星人達が大好きな光あふれる人間の姿を演じてもらう事です。いま、グレシャッド星人達が入っている人間よりも、さらに光あふれる人間が目の前に現れることによって、グレシャッド星人は、今迄の人間の体から出て、光あふれる人間の体に入ろうとしますので、その時をねらって彼等を逮捕するのです。

この罠は、地球人にはいりこんで、その人をコントロールしようとする者達を捕まえる為には非常に役に立ちました。

沢山のグレシャッド星人や地球外生命体達が、この罠にかかって逮捕されていったのです。

そして、狂気を演じている創造主のまわりに集まってきた地球外生命体もだいが逮捕されてきました。

後はまだ用心深く様子を見守っている地球外生命体だけのようです。

ここで私達は次の作戦に出ます。

時を操る創造主や魔法使いによって、地球の時間をとめてもらいます。

これで、様子をうかがっている地球外生命体も動けなくなりますので、この隙にスターピープル達に急いで

地球に戻ってきてもらい、畏にかかっていない地球外生命体達をつかまえてもらう事にしました。一斉に、スターピープル達が流れ星のように、地上に飛来し、隠れている地球外生命体を捕まえています。これで、地球に来ている地球外生命体達の多くは、捕まえることが出来たようです。後は、人ともうすでに一体化している地球外生命体が残っているのですが、彼等はやがて自分自身が地球外生命体であることや自分達の目的も忘れて、地球人として生きていくことになります。

私は、「すべての意識を生み出す創造主」に大切な提案をしました。

「創造主よ、あなたにとっても大切なお願いがあるのですが、実はあなた自身の狂気によって、あなたのスピリットが幽閉されていた場所を消滅させたいのです。

あの場所は今でも、宇宙の脅威となるグレシャッド星人や「闇の粒子」などがたくさん存在しています。またロッド星人や私達でも対処できない者達もたくさんいます。

あの世界をこのままにしておけば、彼等はあの世界を拠点として、多くの宇宙や星々を侵略することでしょう。

今のうちにあの場所を無に帰したいと思っているのですがいかがでしょうか。」

「すべての意識を生み出す創造主」はしばらく考えています。

「確かに、あの世界は、混乱と狂気に満ちた世界です。

憎しみや悲しみに満ち溢れています、地球人の中には、あの世界に導かれていく人もいます。

私が持つ深い苦しみの感情に引き寄せられている人もいますので、その人たちにとっては必要な世界かもしれませんが。」

「そうだとすれば、この世界は消したほうが良いでしょう。

人々は孤独や不安にさいなまれると、他人を恨み憎しみを持つものです。

そのエネルギーは地球外生命体にとっては格好の餌となりますし、その思いが強ければ、自らグレシャッド星人のように危険な存在になってしまうかもしれません。

どちらにしても、人の生命エネルギーを吸い取って生きるグレシャッド星人の餌食になるだけのようにも思えますが。」

私の厳しい言葉に創造主も苦しい思いをしているようです。

自分自身が、長い間狂気を失っていたおかげで、多くの地球外生命体が、さらに凶悪なものとなり、多くの星々を壊滅させて言った原因が、まさに自分自身が持っていた憎しみであると知っているからです。

「わかりました。

私も本心では、あの世界を消滅させたほうが良いと思います。

私の絶望感や怒り、憎しみも共に光に帰してください。」

私は「空間の創造主」にお願いしてあの世界を光に帰してもらう事にしました。

多くの凶悪な地球外生命体を生みだした場所、そして闇の創造主やブラックエンジェルを生みだした世界がこの宇宙から消えていくことになります。

ロッド星人もアシュタール達も喜んでいるようです。

「TAKESHI さん、私達もあの世界を初めて見たときは、背筋が凍るような思いでした。

私達も長い間、様々な宇宙のために働いてきたのですが、その最初の始まりがこの創造主だったのですね。彼が作り出した世界が、宇宙からなくなることで、私達も一安心です。」

地球と宇宙のアセンションを前に、大いなる宇宙の闇の根源がようやく消えていくことになりました。

## PART2 破壊された銀河

アセンションの分離作業がどんどん進み、地球に生きる人々も自分が行くべき世界へと向かっていきます。今の時点では何の変化もないように思えますが、皆さん行先の異なる列車に乗り込んで、自分のいくべき世界に向かって進み始めています。

しかし、まだ多くの方が、混雑する駅のホームで自分のいく先を決めかねて悩んでいたりと、自分が行きたい世界に行く列車に乗れず大騒ぎをしています。

スターピープル達は、今回正気に戻った創造主の助けも借りて、地球の人々の気持ちを安らがせ分離を行っていますが、また新たな問題が起きてきました。

其れは「すべての意識を生み出す創造主」が狂気の創造主だったころに、迷惑をかけた他の星々や創造主、スターピープル達が大量して押しかけてきたことです。

之には、私達も本当に驚いたのですが、「すべての意識を生み出す創造主」は、狂気の中にいたときに、新しく生まれた銀河を破壊したり創造主達やスターピープル達を、誰も行くことが出来ない暗闇の中に閉じ込めていたのです。

彼が正気に戻り、その時の力が弱まると、閉じ込められていた世界の封印が解け、彼等は解放されました。そして、「すべての意識を生み出す創造主」に抗議や復讐をしようと思い、地球にやってきたのです。

彼等は、私達が「すべての意識を生み出す創造主」をかくまっていると勘違いし、私たちにも執拗に攻撃を仕掛けてきます。

或る時、その攻撃があまりにもしつこかったので、そのエネルギーを辿っていくと、約10人ばかりの創造主達がいました。

私達とは、異なる宇宙の創造主のようでしたので、「神聖なる光の創造主」達にも来てもらい話を聴くことにしました。

「私達は、かつてこの「狂気の創造主」によって、生まれたばかりの銀河を破壊されました。

私達はまだ若い創造主で、仲間たちと力を合わせて初めての銀河を生み出したのですが、その様子を見た「狂気の創造主」に、様々なクレームをつけられ、私達がそれに対応できないと知ると、私達が作り上げた銀河を破壊して、私達を闇の底に落とし幽閉してしまったのです。

それから長い間、私達は闇の世界の中で絶望感と共に暮らしていました。

ところが数日前、その闇の世界が開いたのです。

私達は、急いで闇の世界から出て、「狂気の創造主」の事を何とかしてもらおうと思い、やってきました。すると皆さんが、「狂気の創造主」と共に活動しているので、それを何とかやめさせたいと思い、エネルギーを送っていました。」

私は、この「狂気の創造主」がそのようなことをしていたのかと愕然としました。

しかし、様々な地球外生命体を作り出し、地球に対しても破壊的な活動をしていた創造主ですから、それも当たり前かもしれません。

私は、この事を「神聖なる光の創造主」に報告しました。

彼女は、もうすでに「狂気の創造主」がやったことは細かく知っているようでしたので、私に丁寧に対処するように言われました。

「偉大なる創造主の皆さん、皆さんのお怒りはもったもです。

その当時「狂気の創造主」は、自分の孤独感から正気を失い、理性では考えもつかないほどの愚かな行為を繰り返していました。

それは、皆さんだけでなく、この宇宙の多くの創造主やスターピープル達に対してもそうでした。

光の創造主も、このままではいけないと思い手を尽くしていましたが、この創造主を立ち直らせることはできませんでした。

しかし、先日、彼の失われたスピリットが彼のもとに戻り、彼は理性と本来の目的を取り戻しました。

そして、「すべての意識を生み出す創造主」として、この宇宙に貢献できるようになりました。」

私の話を聴いても、被害にあった創造主達はまだ半信半疑のようです。

「わかりました、それでは「すべての意識を生み出す創造主」よ、ここに出てきて自ら謝罪をしてください。」

被害にあった創造主は、あの時の創造主が出てくると聞いて身構えていましたが、「すべての意識を生み出す創造主」が一生懸命謝罪する姿を見て、あの時の荒々しさが失われ、優しくて気高さに満ちているのを感じ、私の言葉を信頼してくれたようです。

被害を受けた創造主は、仕方がない、という顔をして言います。

「わかりました、「狂気の創造主」が今はもういないという事が良くわかりました。

私達は、これで安心してまた新しい銀河の創造が出来ます。」

私は、この創造主達がとてもかわいそうに思えてなりません。

「神聖なる光の創造主」に、この創造主に対して、謝罪を行う意味で、宇宙の創造に対する叡智と素晴らしい愛のエネルギーを送ってもらえないかお願いしました。

「神聖なる光の創造主」はにっこりと笑い答えます。

「創造主達よ、今回の事は大変申し訳なく思います。

長い間、皆さんは大変に辛い思いで時間を過ごされた事と思います。

しかし、これも学びの一つですから、この時間を過ごした事もしっかりと受け止めてください。

皆さんには、私から、この長い時間の間に得るであったと思われる創造の叡智と愛のパワーを送ることにしましょう。

そうすることで、これから皆さんが作る宇宙は更に素晴らしく愛に満ちたものとなるでしょう。

これから、どうか素晴らしい宇宙を創造してください。」

被害を受けた創造主は、「神聖なる光の創造主」から優しい言葉をかけてもらったことを喜びとして希望に満ちあふれて自分達の世界に帰っていきました。

## PART2 自分の世界と妻を失ったマスター

その翌日には、またほかのマスターもやってきました。

彼は大きな怒りと悲しみに満ちています。

「私達の世界は、この「狂気の創造主」によってめちゃめちゃにされました。そして大切な私の妻も、この創造主によって殺されてしまったのです。」

これもまた重たい問題です。

「すべての意識を生み出す創造主」は、自分が狂気の時に行ったことなので、覚えていないようですが、自分が行った数々の罪業に打ちのめされているようで、ひたすら謝罪しています。

私は更にどのようなことがおきたのか、創造主に聞いてみました。

「私達の世界は、決して大きくはりませんが、皆さんが仲良く暮らしていました。

ところがある日、私達の世界に、黒い煙のような粒子が襲ってきたのです。

そのことによって、人々は平常の意識を失い、争いや奪い合いを行うようになりました。

多くの者達が死に、あるいは病気になりました。

その様子を悲しんだ私の妻が、「狂気の創造主」のもとに出向きました。

本当は、私が行く予定だったのですが、私の身に何かあるといけないと案じた妻が、私の代わりに「狂気の創造主」のもとに行ったのです。

すると、妻の抗議を面倒に思った「狂気の創造主」によって、一瞬のうちに、私の妻は命を奪われてしまいました。

それ以来、私の世界は、闇に閉ざされ、多くの物が死に絶え、荒れ果てた世界になってしまったのです。

私は、「狂気の創造主」が力を失ったと聞いて復讐をしようと思ってやってきました。」

一緒にその話を聴いていたアシュタールのエレナさんも涙を流しています。

女性として、夫の身を心配して犠牲になった創造主の妻の事を、かわいそうに思ったのでしょうか。

そして、このような事をした「狂気の創造主」に、大きな怒りを感じているようです。

私はこのマスターをなだめていますが、到底収まりそうにありません。

私は、「神聖なる光の創造主」にお願いして、このマスターの世界の歴史を変えてもよいか尋ねました。

「神聖なる光の創造主」は思いやりのある声でお答えになりました。

「この世界は、さほど大きくもなく、他の世界とはあまり交流がない世界ですので、この世界が復活してもさほど問題はないでしょう。

この世界とかわりがある世界は、私達が調整しておきますので、どうか、この世界を復活させてください。」

本来は、歴史を変えることは許されないのですが、「すべての意識を生み出す創造主」が行ったことに関しては、大目に見られているようです。

私達は、マスターをともなって、彼の世界がまだ無事であったころに戻りました。

そして、彼の話から推測すると、彼の世界を襲ってきたのは、エルナエルを襲ったものと同じで「狂気の創造主」が作りだした「黒い粒子」のようです。

私は、光の粒子である「スターフラッシュ」を呼び寄せました。



「スターフラッシュ」よ、私の知るところでは、「闇の粒子」に対抗できるのは、あなた方しかいません。あなた方の力で、「闇の粒子」から、この世界を守って頂くことはできませんか。」

「スターフラッシュ」は快く応じてくれました。  
私は、さらに「神聖なる光の創造主」にお願いして、「スターフラッシュ」達に光を与えて強化し、「闇の粒子」に負けないパワーを身に着けさせることにしました。  
そして時間がやってくるのを私達は待っています。

夜の暗闇に紛れて「闇の粒子」がこの世界に入ってきます。  
「スターフラッシュ」達も、解き放たれて「闇の粒子」のもとに向かいます。  
「闇の粒子」と「スターフラッシュ」が出会った瞬間、火花のようなものが飛び散ります。  
2つのエネルギーがお互いを自分達に同化作用として激しく争っています。  
光の粒子が闇の粒子に、闇の粒子が光の粒子に変わっていきます。  
そしてさらに反対の粒子に変わり、何度も光と闇が反転していきます。  
しばらくすると、少しずつ「光の粒子」が増えてきます。  
おそらく「神聖なる光の創造主」の力を加えた分だけ、「スターフラッシュ」の力が強くなっていたようです。  
「闇の粒子」がすべて「光の粒子」に代わっていきました。

しばらくして、「闇の粒子」の仕事ぶりを「狂気の創造主」が身に來ました。  
そして、「闇の粒子」の仕事が誰かが邪魔したことに気づき怒り出しました。  
私達は、この時に「神聖なる光の創造主」にお願いして「狂気の創造主」を別の世界に飛ばしてもらいました。  
それ以来、「狂気の創造主」はこの世界に関わる事はありませんでした。

そしてマスターも、自分の大切な世界と愛する妻を失う事から逃れることが出来ました。  
歴史が変わることによって、苦しみと悲しみに明けたマスターは歴史の中から消え、明るくて優しいマスターが戻ってきたからです。  
そして、私の横にいた悲しみに満ち溢れたマスターは、煙のように消えていきました。  
私達がこの時代から去る時、愛する妻の肩を抱いたマスター達が、私達の宇宙船に向かって手を振っています。

しかし「狂気の創造主」が、私達の天の川銀河に対して行った最大の暴挙が、これから明らかにされることになりました。  
その詳細は次号でお話しします。